

625  
90



0025048-000

625-90

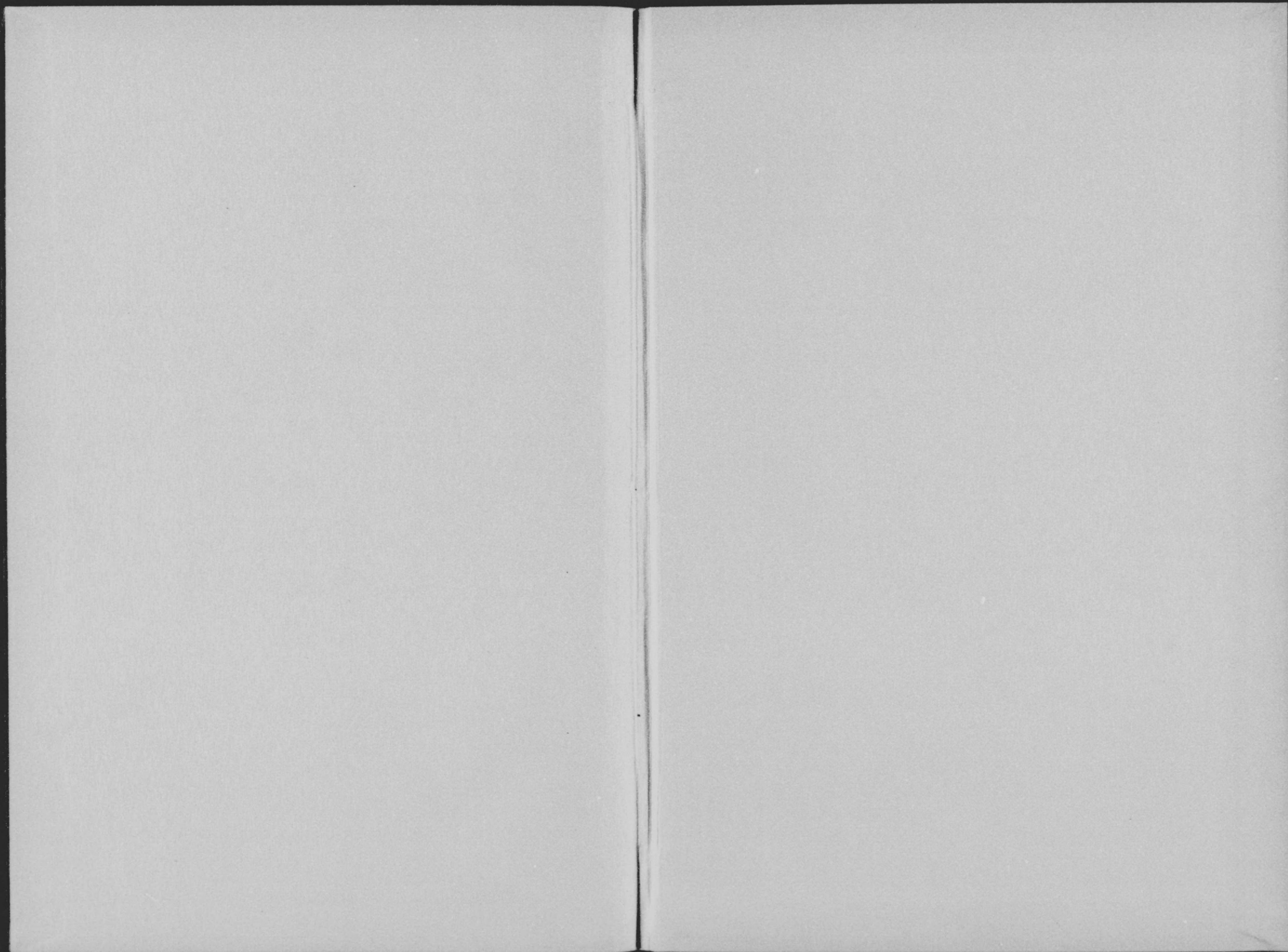
蘭領東印度ニ於ケル農企業及入  
国關係法規

通商局第三課・〔編〕

外務省通商局

昭和7

ADE



工 28-33

625  
90

和七年八月

蘭領東印度ニ於ケル  
農企業及入國關係法規

外務省通商局

緒言

發行所寄贈本

本書ハ南洋栽培協會ニ委囑調査報告セシメタルモノニシテ苦

力條例關係資料ハ昭和六年七月南洋栽培協會發行「蘭領東印度

外領苦力條例」ノ後編ト看做スヘキモノナリ

尙入國關係法規中ニ記載ノ百盾ノ入國稅ハ昭和六年七月一

ヨリ百五十盾トナリタリ

昭和七年八月



通商局第三課

625-90

蘭領東印度ニ於ケル農企業及入國關係法規

目次

第一、農園從業員關係法規	一頁
助手規則	一
第二、農園勞働者關係法規	一九
一、一九三二年苦力條例註釋	一九
二、一九三二年苦力條例施行規則	三五
三、一九三二年苦力條例第五條第二項及第十二條第四項a段施行規則	四五
四、「メダン」勞働者登録局設立法案	五一
五、「メダン」勞働者登録局設立條例註釋	五七
第三、外領ニ於ケル土地ノ永租借關係法規	六五
一、外領ニ於ケル政府直轄地ノ永租借條例	六六



二、瓜哇及「マヅラ」以外ノ諸地方ノ土侯自治領ニ於ケル土地ノ永租借條例……………七八

第四、入國關係法規……………一〇五

一、蘭領印度入國令……………一〇五

二、蘭領印度入國令施行細則……………一一七

蘭領東印度ニ於ケル農企業及入國關係法規



農園從業員關係法規

助手規則

第一條

一九二一年三月二十一日附勅令ヲ以テ制定  
 一九二四年四月十五日附、一九二六年三月十五日附勅  
 令及一九三一年八月二十五日附總督令ヲ以テ修正

第一項 一九三一年苦力條例ノ規定ニ基キ使用人ヲ雇傭セル「スマトラ」東海岸「アッチェ」及  
 屬領「タバヌリ」、「バレムバン」、「ラムボン」、「ベンクローレン」及「スマトラ」西海岸州ノ  
 農園ニ在リテハ成文公證又ハ個人契約書ニ據ラスシテ助手ヲ使用スルコトヲ禁ス

第二項 個人契約書ハ正副二通ヲ作成スルヲ要ス使用主ハ契約成立後直ニ其ノ副本ヲ當該助手ニ  
 交付スヘシ

第三項 助手ニ交付スヘキ公證契約書ノ認證副本作成ニ要スル費用並ニ其ノ他ノ附帶費ヲ含ム契約書作成費用ハ使用主ノ負擔トス

第一 a 條

民法ノ規定ハ契約當事者双方ノ國籍如何ヲ問ハス使用主ニ對スル助手ノ雇傭關係ニ之ヲ適用ス但シ本規則ノ規定ト牴觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二 條

第一項 本條第四項ノ規定ヲ除キ本契約ハ一ケ年以上ノ一定期間又ハ不定期間ニ對シテノミ締結スルコトヲ得但シ不定期間ニ對シテ結フ契約期間モ一ケ年未滿ナルコトヲ得ス不定期間ニ對シ結ヒタル契約ノ上記最短期間一ケ年ノ計算ニハ從來已ニ同一使用主ノ下ニ勤務シ居リタル期間ヲモ通算ス但シ臨時見習期間ニ在リシ者ト直ニ新契約ヲ結ヒタル場合ハ之ヲ除ク

第二項 期間ヲ定メ契約ヲ結ヒタル場合右契約終了前少クトモ四ヶ月以前ニ契約當事者何レカ一方カ相手方ニ對シ一定期間經過後契約解除ヲ希望スル旨ノ通告ヲ與ヘサル限り該契約ハ其ノ期間經過後同一條件ヲ以テ同一期間更ニ延長セラルルモノト看做ス

第三項 不定期間ニ對スル契約ヲ結ヒタル場合ニ在リテハ契約當事者双方何レヨリモ取消豫告ヲ

發シテ之ヲ解除スル權利ヲ有ス右ノ場合契約ハ若シ其ノ取消豫告ヲ少クトモ四ヶ月以前ニ發シタルトキハ第一項記載ノ最短期間經過後ニ於テ其ノ他ニ在リテハ一方カ相手方ニ對シ契約ヲ取消シタル日ヨリ四ヶ月後ニ解除セラルルモノトス

第四項 第一項規定ノ契約締結前豫メ見習期間ニ對スル臨時契約ヲ結フコトヲ妨ケス但シ見習期間ハ五ヶ月ヲ超ユルコトヲ得ス又一方ニ對スル期間ヲ相手方ニ對スル期間ヨリ長ク定ムルコトヲ得ス本臨時契約ニハ第一條ヲ除キ本助手規則ヲ適用セス契約當事者双方ハ何レモ見習期間中ハ何時タリトモ通告ヲ發シテ雇傭關係ヲ解除シ得ル權利ヲ有ス

第五項 見習期間ニ對スル契約ハ同一當事者間ニ於テ一回以上締結スルコトヲ得ス

第六項 本條ノ規定ノ何レカニ牴觸スル條件ハ無効トス

第三 條

本規則適用ニ方リ用語ノ解釋ハ左ノ如シ

- a 使用主 第一條記載ノ如キ農園ノ所有主、其ノ代表者及園支配人
- b 助手 園支配人ノ下ニ於テ普通農場、工場又ハ工作場ノ勞働ニ對シ専門的指導又ハ監督ニ任スル者

。 助手ノ家族 其ノ妻、未成年ノ嫡子及未成年ノ庶子

第 四 條

第一項 契約ニハ左記事項ヲ規定スルヲ要ス

(一) 助手ノ所得スヘキ給料月額並ニ助手ノ享受スヘキ其ノ他ノ利益ノ性質及程度  
契約セル勞働ノ種類

(三) 場合ニヨリ助手ニ支給スヘキ會社ニ所屬スル一園又ハ諸園ノ利益配當額並ニ其ノ利益計算  
方法

(四) 助手ニ勞働ヲ課シ得サル且助手カ自由ニ園内又ハ園外ニ於テ行動シ得ル毎月ノ時日

(五) 助手カ任意國內又ハ外國ニ於テ過シ得ヘキ賜暇並ニ其ノ賜暇期間中ニ享受スヘキ同人ノ利  
益

(六) 第二條第二項及第三項記載ノ方法又ハ第十一條、第十二條及第十七條記載ノ如キ助手ノ過  
失ニ因ラスシテ起リタル緊急又ハ重大ナル事由ニヨリ契約終了シタル後本人及其ノ家族並ニ  
其ノ手廻品ヲ使用人ノ費用ヲ以テ送還スヘキ蘭領印度内又ハ蘭領印度外ノ場所

第二項 契約ニ一層有利ナル規程ヲ含マサル限り助手ハ毎月二日ノ日曜ヲ含ム四日ノ休日及給料

全額ヲ受ケテ勤務一ケ年後毎二十四日ノ休暇並ニ臨時見習期間ヲ通算セル六ケ年後毎ニ八ケ月  
ノ賜暇ヲ得ル權利ヲ有ス但シ右八ケ月ノ賜暇ハ若シ之ヲ蘭領印度内ニ於テ過ストキハ此ノ期間  
ヲ四ケ月以上ト契約スルヲ妨ケス

第三項 使用主ハ重大ナル事由アル場合ハ毎年定メタル休日ノ代リニ同一月内ノ他ノ休日ヲ指定  
スルコトヲ得但シ内少クトモ二日ハ日曜日ニ該當スルヲ要ス

第四項 賜暇ニ對スル權利ハ解雇ノ容認ニヨリ喪失セス

第五項 一定年間勤務後ノ賜暇ニ對シテハ民法第一六〇三ニ補條ヲ適用ス但シ同條第三項ノ第一  
六〇三ニ條トアルハ本規則第十七條ト讀ムヘキモノトス

第六項 第一項(六)ニ記載ノ場所ニ關シ何等規定セサルトキハ右ニ舉ケタル場合ニ在リテハ助  
手、其ノ家族及手廻品ヲ使用主ノ費用ヲ以テ送還スル場所ハ助手之ヲ指定スルモノトス

第七項 第一項記載ノ其ノ他ノ事項ハ契約書ニ別ニ規定セサル限り地方的慣習ニヨリ之ヲ決シ此  
ノ種ノ慣習ヲ缺クトキハ裁判官之ヲ公平ニ判定ス之等其ノ他ノ事項ノ何レカノ規定ヲ助手カ行  
使スルヲ斷念セシムル條件ハ之カ規定ト看做スコトヲ得ス

第八項 直接ナルト間接ナルトヲ問ハス助手ノ結婚ヲ妨クル條件ハ無効トス



第四 a 條

六

第一項 使用主ハ左記義務ヲ有ス

a 異常ナル事態アリテ助手ノ労働ヲ餘儀ナクスル場合ヲ除キ第四條第二項記載ノ毎年與フル四日ノ休日ニ其ノ園ノ爲メニ助手ニ労働ヲ課セサルコト及右ノ如キ労働ノ遂行竝ニ事態ニ就テハ遲滞ナク之ヲ當該労働監督官ニ報告スルコト

b 第四條第二項記載ノ助手カ受クル休日ハ労働局長官ノ決定スル雛形ニ依リ作成シタル農園備付ノ登記簿ニ記録スルコト

c b 段記載ノ登記簿ハ外領労働監督官ノ要求アラハ直ニ之ヲ檢閲セシムルコト

第二項 使用主ハ毎月末日ヨリ五日以内ニ第一項b 段記載ノ登記ニ付署名シテ檢證スル義務ヲ有ス

第五 條

第一項 使用主ハ労働ヲ行ハシムル作業場及其ノ場内ニ備付ノ作業用具ハ合理的ニ要求セララルル限リ助手ノ身體及着用品ニ對スル危険ヲ防止スル方法ニヨリ之ヲ設備維持シ且營業ヲ經營スルノ義務ヲ有ス

第二項 之等ノ義務ヲ履行セサルトキハ使用主ハ労働遂行ニ方リ又ハ之ニ關聯シテ助手ニ及ホシタル損害ヲ賠償スルノ義務ヲ有ス但シ右不履行カ不可抗力又ハ該損害ノ大部カ同シク助手ノ無謀ナル過失ニ因ルトノ證據アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三項 使用主カ之等ノ義務ヲ履行セサルカ爲メ助手カ労働ノ遂行ニ方リ又ハ之ニ關聯シテ負傷シ其ノ結果死亡シタル場合ハ使用主ハ當該助手カ労働シテ扶養スルヲ要スル其ノ家族又ハ兩親ニ對シ損害ヲ賠償スルノ義務ヲ有ス但シ右不履行カ不可抗力又ハ其ノ死亡カ大部分助手ノ無謀ナル過失ニヨルトノ證據アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四項 本條適用上助手ノ無謀ナル過失ノ内ニハ助手カ土人及之ト同格ノ人種ニ屬スル労働者ニ對シ腕力行爲ヲ用ヒタル場合ヲモ含ム

第五項 之等使用主ノ義務ヲ除外又ハ制限スル條件ハ無効トス

第六 條

第一項 使用主ハ助手カ罹病又ハ不慮ノ厄災ニ遇ヒタル場合ニハ其ノ病氣又ハ厄災當時ニ於テ賜暇中ナラサル限リ助手ニ費用ヲ負擔セシメスシテ適當ナル看護、醫療及手術ヲ受ケシムルノ義務ヲ有ス

七

第二項 若シ擔當醫師カ好マシト認ムルトキハ助手ハ前項記載ノ看護、醫療及手術ヲ病院ニ於テ受クルコトヲ要求スル權利ヲ有ス

第三項 助手ノ家族カ罹病セル場合擔當醫師カ必要アリト認ムルトキハ當該助手カ働ケル農園ノ加入セル園病院又ハ中央病院ニ入院スル權利ヲ有ス

第四項 之等使用主ノ義務ヲ除外又ハ制限スル條件ハ無効トス

第七條

削除（舊規則ニハ助手在園中ノ證明書ヲ書クコトノ取極アリ）

第八條

削除（舊規則ニハ助手死亡ノ場合ハ契約書ハ終了ストアリ）

第九條

契約ハ契約書ニ反對ノ約定ナキ限り使用主ノ死亡ニヨリ終了セス民法第一六〇三條第二節ノ規定ハ之ヲ適用セス

第十條

契約當事者双方何レモ取消豫告ヲ爲サヌ又ハ取消豫告ニ適用セララルル規定ヲ顧慮セスシテ契約ヲ

解除スルコトヲ得但シ此ノ場合相手方カ同意セサルニ之ヲ解除セントスル當事者ノ一方ハ之ト同時ニ相手方ニ第十三條ノ規定ニ基キ損害賠償ヲ支拂フカ又ハ緊要ナル事由アリテ即時相手方ニ通告シテ解除スルニ非サレハ不法行爲ヲ犯スモノトセララルヘシ

第十一條

第一項 使用主カ合理的ニ契約ヲ繼續セシムルコトヲ要求シ得サル結果ヲ齎ス助手ノ行爲及行狀ハ之ヲ前條ノ意義ニ於ケル使用主ニ對スル緊要事由ト看做ス

第二項 緊要事由アリト認ムヘキ場合ハ就中左記ノ如シ

(一) 助手カ契約締結ニ方リ贋證明書若ハ偽證明書ヲ提示シテ使用主ヲ欺瞞シ又ハ故意ニ前契約解除ノ方法ニ關シ偽リタル報告ヲナシタル場合

(二) 助手カ約定セル勞働ニ對シ技能及適應性ヲ著シク缺キ居ル場合

(三) 助手カ契約締結ニ當リ何等舉示セサリシ又ハ故意ニ偽リノ報告ヲ與ヘタル身體虛弱ノ結果罹病シ勞働ヲ遂行シ得サル場合

(四) 助手カ其ノ職務遂行ノ結果ニ依ル以外ノ原因ニ依リ四ヶ月以上其ノ勞働ヲ遂行シ得ル状態ニ在ラサル場合

- (五) 助手カ警告ヲ與ヘラレタルニ拘ラス飲酒又ハ其ノ他ノ放逸行爲ヲ敢テ爲シタル場合
- (六) 助手カ竊盜、私消、詐僞其ノ他ノ有罪行爲ヲ犯シ使用主ノ信用ヲ失墜シタル場合
- (七) 助手カ使用主ヲ不作法ニ侮辱シ又ハ眞劍ニ威嚇シタル場合並ニ使用主又ハ園ニ住居シ若ハ働ケル其ノ他ノ者ヲ虐待シ又ハ現行法令若ハ德義ニ牴觸スル行爲ヲ行フコトヲ誘惑シ若ハ誘惑セントシタル場合
- (八) 助手カ故意ニ又ハ警告ヲ與ヘラレタルニ拘ラス使用主ノ所有物件ヲ無謀ニ損傷シ又ハ重大ナル危険ニ瀕セシメタル場合
- (九) 助手カ故意ニ又ハ警告ヲ與ヘラレタルニ拘ラス無謀ニ園ニ於テ自己又ハ他人ヲ危険ニ瀕セシメタル場合
- (一〇) 助手カ使用主ノ營業ニ關スル秘密ニ屬スヘキ技術上ノ事項ヲ他ニ漏洩シタル場合
- (二) 助手カ使用主又ハ使用主ノ名義ヲ以テ與ヘラレタル正當ナル命令又ハ委託任務ヲ頑強ニ拒ミタル場合
- (三) 助手カ契約ニヨリ課セラレタル義務ヲ上記以外ノ方法ニ依リ著シク怠リタル場合
- 第三項 第十條ノ意義ニ於ケル緊要事由アリヤ否ヤヲ使用主ノ一存ニ依リ判定セントスル條件ハ

何レモ無効トス

## 第十二條

第一項 助手カ合理的ニ契約ヲ繼續スルコトヲ要求シ得サル結果ヲ齎ス事情ハ之ヲ第十條ノ意義ニ於ケル助手ニ對スル緊要事由ト看做ス

第二項 緊要事由アリト認ムヘキ場合ハ就中左記ノ如シ

- (一) 使用主カ助手又ハ其ノ家族ノ一員ヲ虐待シ不作法ニ侮辱シ若ハ眞劍ニ威嚇シ又ハ使用主ノ家人若ハ傭人ニ依リテ行ハレタル上記行爲ヲ默認セル場合
- (二) 使用主カ助手若ハ其ノ家族ノ一員ヲ現行法令若ハ德義ニ牴觸スル行爲ヲ行フコトヲ誘惑シ若ハ誘惑セントシタル場合又ハ使用主ノ家人若ハ傭人ニ依リテ行ハレタル上記誘惑若ハ誘惑企畫ヲ默認セル場合
- (三) 使用主カ契約並ニ本規則ニ依リ課セラレタル義務ヲ著シク怠リタル場合
- (四) 使用主カ契約ニ約定セス且助手カ拒否スルニ拘ラス他ノ使用主ノ營業ニ於ケル勞働遂行ヲ命シタル場合
- (五) 契約ノ繼續カ契約締結當時判明セサリシ助手ノ生命、健康、德義又ハ名譽ニ對シ顯著ナル

危険ヲ伴フ場合

(六) 助手カ其ノ過失ニ因ラサル病氣又ハ其ノ他ノ事由ニヨリ約定セル勞働ヲ遂行シ得ラレサル状態ニ至リタル場合

第三項 第一項ノ意義ニ於ケル緊要事由アリヤ否ヤヲ助手ノ一存ニ依リ判定セントスル條件ハ無効トス

第十三條

第一項 第十條記載ノ損害賠償ハ期間ヲ定メテ結ヒタル契約ニ在リテハ契約ニヨリ又ハ第二條第二項ニヨリ延長セラレタル契約ニ依リ當然存續セラルヘカリシ期間ニ對スル助手ノ給料ニ等シク又期間ヲ定メサル契約ニ在リテハ契約第一年ノ期間中ナラサル限り四ヶ月ニ對スル助手ノ給料ニ等シク若シ右第一年未經過前ニ解除スルトキハ其ノ未經過期間ニ對スル給料及最低四ヶ月分ノ給料ニ等シキモノトス

第二項 助手ニ對スル損害賠償ヲ前項ヨリ一層低額ニ約定スル條件ハ無効トス

第十四條

契約當事者何レカ一方カ取消豫告ヲ爲サス又ハ取消豫告ニ對スル現行ノ規定ヲ顧慮セス契約ヲ解

除シ同時ニ相手方ニ對シ前條第一項ノ規定ニ基キ損害賠償ヲ支拂ヒタル場合ト雖モ相手方ニ於テ右損害賠償ニヨリ當該損害カ賠償セラレサルモノト認ムルトキハ之ヲ裁判ニ附シテ更ニ追加ヲ請求スルノ權利ヲ有ス

第十五條

第一項 契約當事者何レカ一方カ契約ヲ不法ニ解除シタル場合ニ在リテハ相手方ハ第十三條記載ノ金額並ニ契約解除ノ日ヨリ年六歩ノ割合ヲ以テ計算スル利子ノ合計額又ハ充分ナル損害賠償ヲ請求スルノ權利ヲ有ス

第二項 締約當事者何レカ一方カ故意ニ又ハ過失ニヨリ相手方ニ對シ取消豫告ヲ爲サス又ハ取消豫告ニ對スル現行規定ヲ顧慮セスシテ契約ヲ解除スル爲メ緊要事由ヲ提示シ且相手方ニ於テ其ノ權利ヲ行使シタル場合モ亦同シ

第十六條

前記ニケ條ニ基ク請求權ハ何レモ一ケ年ヲ經過スレハ其ノ效力ヲ失フ

第十七條

第一項 契約當事者ハ何レモ何時タリトモ假ニ勞働開始前ト雖モ重大ナル事由アルノ故ヲ以テ契

約解除ヲ裁判官ニ請願スルノ權利ヲ有ス

右權利ヲ除外又ハ制限スル條件ハ無効トス

第二項 第十條記載ノ緊要事由ノ外請願者又ハ其ノ相手方ノ個人的若ハ能力狀態又ハ勞働ヲ遂行スル四圍ノ事情ニ變化ヲ來シ契約カ公平ナル立場ヨリ直ニ又ハ短時日後解除セラルヘキ見込アル場合モ亦之ヲ重大ナル事由ト看做ス

第三項 裁判官ハ其ノ相手方ノ主張ヲ聽取シ又ハ正式ニ之ヲ召喚シタル後ニ非サレハ前記請願ヲ聽許セサルモノトス

第四項 若シ裁判官カ右請願ヲ聽許シタルトキハ該契約カ解除セラルヘキ時期ニ付テモ裁判官之ヲ定ム

### 第十八條

本令記載ノ契約ニ對シテハ契約當事者双方ハ其ノ登録原籍 (domicile) ヲ地方法院設置ノ州ニ在リテハ同法院登記所ニ其ノ他ノ州ニ在リテハ其ノ首都ニ於ケル州裁判所ノ登記所ニ選定セルモノト看做サル登記官ハ其ノ登記所ニ届ケ出テタル告知書ヲ採録シ直ニ利害關係者又ハ其ノ代表者カ蘭領印度内ニ居住又ハ居留シ其ノ住所又ハ居留地カ登記官ニ判明セル限リ此ノ後者ニ對シテハ法律

上其ノ必要ナシト雖モ之ニ付通告スルノ義務ヲ有ス

### 第十九條

第一項 使用主カ第一條第一項又ハ第二項、第二條第一項、第四項第一段及第五項又ハ第四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五百盾以下ノ罰金ニ處ス本項第一段ニ於テ有罪トセラレタル行爲ノ何レカ一件ニヨリ所罰セラレ前回ノ判決確定後未タ二ケ年ヲ經過セサルニ更ニ之ヲ繰返シタルトキハ罰金ノ代リニ二ケ月以下ノ禁錮ニ處スルコトヲ得

第二項 第四條ノ規定ノ違反及助手ノ受クヘキ休日ニ付登記簿ニ不正ナル記載ヲ行ヒ檢證シタル使用主ハ三ケ月以下ノ禁錮又ハ五百盾以下ノ罰金ニ處ス前回ノ判決確定後毎回二ケ年内ニ更ニ第二回又ハ夫以上ニ違反ヲ繰返シタルトキハ禁錮刑ヲ限リ之ニ科ス

第三項 第四條第一項一段ノ規定又ハ刑法第七十(二)條ヲ參酌スル場合ヲ除キ本條第一項ノ規定ノ何レカニ違反シタル場合ハ違反ヲ行ヒタル各助手ニ對シ一件毎ニ刑ヲ科スモノトス

第四項 本條第一項及第二項ニ於テ處罰セラルモノト定メタル行爲ハ之ヲ違反行爲ト看做ス

第五項 本條第一項及第二項ニ於テ處罰セラルモノト定メタル行爲ノ探索ニハ外領勞働監督官之ニ任ス

第二十條

一六

本令ハ之ヲ助手規則ト稱ス

(註) 民法第一六〇三ノ補條(助手規則第四條第五項參照)

若シ使用主カ契約ニ約定セル一定年間勤務後ノ賜暇ノ許容ニ對スル義務ヲ回避スル目的ヲ以テ雇傭關係ヲ解除スル場合ニ在リテハ勞働者ハ解雇ノ爲メ他ノ名目ニヨリ同人カ享受スヘキモノ以外ニ同人カ契約ニヨリ賜暇期間中ニ享クヘキ給料相當額ノ損害賠償ヲ請求スル權利ヲ有スルノミナラス契約ニ無料航海ニ對スル權利ヲ約定セルトキハ契約ニ基キ原籍地又ハ賜暇地ニ至ル雇傭關係終了時期ニ於テ必要ナル無料航海ニ要スル額ヲ受クルモノトス

若シ前項記載ノ場合以外ニ於テ賜暇ノ許容ニ對シ契約ニ定メタル勤務期間カ半分經過後使用主カ恣ニ緊要ナル事由ナクシテ契約ヲ解除スル場合ニ在リテハ使用主ハ他ノ名目ニヨリ勞働者ニ支拂フヘキモノ以外ニ勞働者ニ第一項規定ノ損害賠償額ヲ契約解除當時ニ於ケル賜暇取得ニ通算スヘキ經過勤務期間カ賜暇取得ニ必要ナル勤務期間ニ對スルト同一ノ比率ニ達スル金額ヲ支拂フ義務ヲ有ス勤務期間計算ニハ契約解除ノ月ハ之ヲ全月ト看做ス

若シ勞働者カ前項記載ノ勤務期間ノ一部經過後使用主ノ舉示セル緊要事由ニ依リ雇傭關係ヲ解除

シタル場合及裁判官カ契約ヲ助手規則第十七條記載ノ如キ緊要ナラスト雖モ重大ナル事由ニ依リ又ハ使用主ノ舉示セル緊要ナル事由ニ依リ又ハ使用主カ其ノ義務ヲ履行セサル爲メ第一二六七條ニ基キ之カ解除ヲ宣告シタルトキ亦同シ

若シ裁判官カ緊要以外ノ事由ニヨリ契約解除ヲ宣告シタルトキハ同裁判官ハ第二項規定ノ金額ヲ事件ノ情狀ニヨリ公平ト思料セラルル額ニ低減スルノ權利ヲ有ス

(一九三二年十一月ヨリ施行)

## 第二、農園労働者關係法規（「アフロス」編）

### 一、一九三一年苦力條例註釋（「アフロス」編）

新苦力條例ハ一九三一年七月一日カラ施行セラル、コトニナツタカ其ノ主ナル目的ハ労働契約ニ於ケル刑罰制度ヲ漸次制限スルニアル

此ノ目的ニ副フ爲メ工夫シタル縮減策ハ一九二一年並ニ其ノ以前ニ開カレタル企業ニアリテハ契約苦力ニ亞キ漸増セル非契約苦力ヲ使用シテ居ラネハナラヌ事ヲ定メテ居ル其ノ結果トシテ契約苦力ノ數ハ對比的ニ非常ニ減スル事ニナル

此ノ縮減策ニ付テハ後段ニ更ニ詳シク説明スル  
又罰則ハ次ノ如ク改正セラレタ即チ將來ハ苦力條例又ハ労働契約ニヨリ與ヘラレタ命令ヲ履行セサル廉ニヨリ所罰セラル、ハ單ニ移民契約苦力ノミニ限ラレ然カモ其ノ命令カ契約セル労働ニ關係セル場合ニ制限セラレテ居ル

故ニ再契約苦力ハ此ノ點テハ所罰ヲ受ケナイ  
約定セル労働ノ履行ヲ拒ミタル時ハ移民契約苦力モ再契約苦力モ同様ニ所罰サレル但シ之モ使用

主ノ側ヨリ繰返シ注意ヲ與ヘタルニ拘ラス頑強ニ拒ミタル場合ニ限ラレル

更ニ本苦力條例ハ舊苦力條例ニ較ヘ種々ノ點カ改正セラレタカ其ノ主ナル點ハ左記ノ通テアル

- (一) 外領諸州ニ對スル苦力條例ヲ一ツニ纏メタコト
- (二) 種々ノ條項規程ヲ要約且組織的ニ併合シ色々ノ用語ヲ改正並ニ一層明瞭ニシタコト
- (三) 今迄苦力條例ニヨリ總督、司法大臣、州長官ニ與ヘタル各種ノ權能ヲ勞働監督局ニ集中シ  
タコト

(四) 苦力ノ賃銀制度ニ付政府カ監督スルコト

(五) 之ト同時ニ種々ノ施行規則ヲ廢シ政府ノ命令書ノミニヨリ之ヲ定ムルコト、シタコト

一九三一年苦力條例ハ一九三六年ヨリ始メ五年目毎ニ改正セラル、コトニナツテ居ルガ其ノ際改正ノ必要アラハ如何ナル範圍マテ刑罰制度ヲ更ニ限定スヘキカカ決定セラル、ノテアル

此ノ改正ニ付テハ「メダン」並ニ其ノ他ノ地ニ設置セラルヘキ勞働委員會ト協議ノ上行ハレルコトニナツテ居ル但シ大體ノ意嚮トシテハ一九三六年以前ニハ刑罰制裁漸廢ニ關スル規定ハ改正セサル見込テアル

## 第一章 第一條—第三條

### (一) 總 則

企業ト云フ内ニハ本條例ノ精神ニ於テハ未タ開墾セサル農業租借地又ハ永代借地モ含マレル換言セハ將來ニ於テハ未開墾ノ農業租借地名モ契約書ニ記載シ得ラレル然シ將來ハ公共事業ニハ契約苦力ヲ使用シ得ナイ當該條項ヨリ其ノ公共事業ナル字句ガ除イテアルカ故テアル

### (二) 契 約 書

移民契約ノ最長期間ハヤハリ三ケ年テアル再契約ノ最長期間ハ十三ケ月カラ一ケ年ニ短縮セラレタ之カ法律上ノ延長ハ單ニ收穫年度カ終ラサル煙草園ニ限ラル、コトヲ特ニ明瞭ニ限定シ從來ノ十八ケ月カ十五ケ月ニ短縮セラレタ

舊苦力條例ト異リ將來勞働者ハ自己ノ罪科ニヨリ缺勤セル日タケヲ補役スレハ足ルコトニナツタ即チ逃亡期間、入獄期間並ニ許可ナキニ拘ラス其ノ他ノ理由ニヨリ缺勤シタル日タケニ限ラレル故ニ病氣、請假休業期間ハ補役ノ要カナイ

當該勞働監督官カ勞働契約ノ成立又ハ認證ノ協力ヲ拒ミタル場合使用主カ州長官ニ上訴スル期間ハ二日ヨリ七日ニ延ハサレタ



又或ル企業カ新使用主ニ讓渡セラレタル場合ニハ從前ハ三日以内ニ之ヲ當該勞働監督官ニ報告スルノ要カアツタカ之モ同シク七日ニ改メラレタ

### 第三章 第十二條—第二十七條

#### 使用主ノ義務

新苦力條例ニ於テハ從前ト異リ勞働者ニ對スル賃銀制度ニ政府カ容喙シ得ル様諸種ノ規定カ定メラレテ居ル即チ第十二條ニ於テハ勞働者ノ收入ハ其ノ普通ノ生計ヲ營ムニ適當ナル程度ナルヲ要スト規定シテアル此ノ意義ニ付テ苦力條例其ノ物ニハ左ノ通り規定シテキル前記適當ナル收入ノ内ニハ左記ヲ含ム

少クトモ勞働者カ日常ノ生計ヲ營ムニ充分ナル額、假リニ特別ナル生計ヲ營ムヲ要スル時ハ此ノ額ニ一五%ノ割増金ヲ支給スルヲ要ス特別ナル生計トハ勞働者ノ食糧、衣服並ニ位置ノ爲メニ絶對ニヨリ以上ノ支出ヲ要スルヲ云フ若シ勞働ノ遂行カ特別ナル故障又ハ特別ナル損失ヲ伴フトキハ勞働者ノ收入ニハ特別ナル營業狀態ニ對スル公平ナル賠償額ヲモ含マネハナラヌ此ノ特別ナル營業狀態ニアルトキハ以上ノ外勞働者日常ノ生計ニ必要トスル額ノ最高三〇%ヲ賃銀ノ割増金トシテ更ニ支給セネハナラヌ(基本賃銀ノ四五%増)特別ナル營業狀態トハ非常ナル山地假宿舍及

病院、不健康ナル地、遠隔ナル地域ノ開墾、日用品ノ高價ナル場合等ヲ云フ賃銀カ本條例ニ定ムル要求ニ充タサルトキハ州長官ハ内務行政官吏又ハ勞働監督官ノ報告ニ基キ之ニ干涉スル州長官ノ意見ニ於テ或ル企業ノ苦力賃カ不充分ト認メタルトキハ書留文書ヲ以テ使用主ニ通告シ之カ改善ニ對シ必要ナル處分ヲ執ルヘキ期間ヲ與ヘル此ノ期間經過後勞働監督局當該監督區長ハ調査ヲ行ヒ州長官ニ報告ス州長官ハ自己ノ意見ヲ具シ之ヲ司法長官ニ回付スル司法長官カ尙不當狀態カ完全ニ一掃セラレサルモノト認ムルトキハ州長官並ニ當該使用主ニ書留文書ヲ以テ其ノ意見ヲ通告スル

此ノ通告發送ノ日ヨリ一九三一年苦力條例第十二條第三、四項記載ノ爭議カ發生スルコト、ナル然カルトキハ内務行政官吏一名ヲ議長トシ勞働監督官並ニ使用主ノ指名スル者ヨリ成ル委員會ヲ任命スル此ノ委員會ハ實際ニ付徹底の調査ヲ遂ケタル後爭議發生ノ日ヨリ三ヶ月内ニ州長官ニ其ノ報告ヲ提出スル州長官ハ自己ノ意見ヲ具シ之ヲ司法長官ニ送付シ司法長官ハ之ニ決定ヲ與ヘテ書留文書ニヨリ使用主ニ通告スル

此ノ決定ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ使用主ハ必要ト認メラル、處分ヲ實行セネハナラヌ該決議書ハ爭議發生ノ日ニ迄溯ツテ效力ヲ有スル

使用主カ該決議後一ヶ月以内ニ之ヲ履行セサル時ハ司法長官ハ苦力條例ニヨル新契約苦力ヲ當該企業ノ爲ニ使用シ得ラレスト規定スルコトカ出來ル同時ニ三ヶ月後現行契約全部ハ總督ニヨリ解除セラレル

當該勞働監督官カ上記決議書ノ原因タル状態カ一掃セラレタルモノト認メタル時ハ州長官ヲ介シ理由ヲ具シタル意見ヲ付シ該決議撤回ノ提言ヲナシ得ル

若シ使用主カ勞働監督官ト意見ヲ異ニシ特別ナル營業状態カ停止シタリト認ムル時ハ當該決議ヨリ少クトモ一ヶ年ヲ經過シタル後理由ヲ具シタル文書ヲ以テ司法長官ニ抗告シ同時ニ使用主ハ更ニ任命スヘキ委員會ノ委員ヲ指名スル

同時ニ此ノ抗告ニ付テハ外領勞働監督官長並ニ當該州長官ニ通告スル然カル時ハ夫々右委員會ノ委員ヲ任命スル更ニ實地調査ヲ行ヒタル後右委員會ハ上記ノ方法ニヨリ三ヶ月以内ニ其ノ報告ヲ提出スル

然カル後司法長官ハ出來ルタケ早ク其ノ決議ニ付使用主ニ通告スル

此ノ賃銀制度ニ對スル干涉ハ不當ナル状態ニアル園ノ一部ニ對シテモ行ハレル引續キ實際賃銀ノ支拂状態ヲ監督スル爲メ三ヶ月毎ニ賃銀表ヲ提出スル義務カ規定セラレテキル

イ 苦力入院中ハ休養日、祭日ニ對シテハ將來逃亡又ハ入獄日ト同様勞働者ニ賃銀ヲ拂フ必要ハナラレタ

勞働監督官カ時間外勞働ノ程度ヲ知ルニ資スル爲メ使用主ハ時間外作業表ヲ提出スル義務カ定メラレタ

賃銀控除ノ條項ノ字句改正ニヨリ契約賃銀ノ一部ヲ米テ支拂ヒタルトキハ使用主ハ之ヲ賃銀ヨリ差引クヲ得ルコト、ナツタ

使用主、支配人又ハ其ノ使用人カ勞働者ニ罰金ヲ科スコトハ明カニ禁止セラレタ但シ政府ノ承認セル勤務規則ニヨリ働ケル鐵道又ハ電軌鐵道従業員ニ對シテハ此ノ限テナイ

勞働者ノ休養並ニ祭日ニ對シテハ當該條項ノ新規定ニヨリ勞働者ハ契約書ニ記載セル慣習的宗教上ノ祭日ノ外一ヶ月少クトモ二日ノ休養日ニ對シ權利ヲ有スルコトニナツタ故ニ祭日カ休養日ト合致シタ時ハ此ノ休養日ハ繰替ヘラレネハナラヌ

勞働者ノ一晝夜最高勞働時間ハ九時間トナツタ其ノ他ノ特別作業例ヘハ點呼、配置並ニ宿舎作業現場間往復ニ一時間以上ヲ要スルトキハ之ニ要シタル經過時間ハ九時間ヨリ控除セネハナラヌ

第四章 第二十七條—第三十一條

(一) 労働者ノ義務

労働者ノ義務ニ關スル規定ハ何等改正セラレナイ唯一層組織的ニ之ヲ合併シタルニ過キナイ

第五章 第三十一條—第三十四條

(二) 懲戒規定

舊苦力條例ニ收録セラテキタ病苦力ニ對スル懲戒權ハ更ニ擴大セラレタ即チ必要アラハ病苦力ヲ強制的ニ病院ニ入院セシムル權利ヲ與ヘテアル  
病院ヘノ強制收容ハ當該醫師カ他ノ苦力ニ傳染スルヲ豫防スル爲メニ必要アリト認メタル場合ニ限ラレル實際上此ノ危険アリヤ否ヤハ醫師ノ意見ノミニヨリ定メラレル  
此ノ點ニ關シテハ一九一一年法律第五四〇號即チ自由苦力ニ對スル條例ニモ同一ノ規定カ收メラル、コトニナツタ

第六章 第三十四條—第四十一條

罰則

罰則ハ左ノ通り修正セラレタ從ツテ將來契約苦力(移民契約、再契約ノ何レナルヲ問ハス)ハ左

記違反ニ對シテノミ罰セラル、コトニナツタ

a 逃亡

b 作業ノ連續的拒否

c 天災ノ際助力ヲ藉サル場合

d 許可又ハ豫告ナシニ鐵道並ニ電軌鐵道使用人及鑛山労働者カ作業現場ヨリ立退キタルトキ

e 第三十六條記載ノ違反(反抗、侮辱、強迫、秩序紊亂、争鬭並ニ酒亂)

f 移民契約苦力ハ右ノ外左ノ場合ニモ罰セラル

一、期限内ニ企業地ニ到着シテ通告セサル場合

二、苦力條例並ニ労働契約書ニ規定セル範圍ニ於テ與ヘラレタル命令ヲ履行セサル場合

將來苦力カ逃亡罪ヲ構成スルハ苦力條例又ハ労働契約書ノ規定スル權利ニヨラス或ハ支配人又ハ其ノ使用人ノ許可書ナクシテ正當ナル理由ナキニ拘ラス引續キ二十四時間以上企業ヨリ立去リタル場合テアル

但シ苦力ハ病身或ハ不意ノ出來事ノ爲即チ正當ナル理由アリテ園外ニ留リタル場合ハ罰セラレナイ

契約セル労働遂行ノ拒否ハ使用主ノ側（支配人又ハ其ノ使用人）ヨリ繰返シ注意シタルニ拘ラス  
頑強ニ之ヲ拒否シタル場合ニ限り罰セラレル

注意ヲ繰返ストハ二回注意シタル時ヲ云フ

拒否ニハ労働者ノ明白ナル拒否ノ申立テヲ必要トシナイ當人カ仕事ニ從ハサリシ事實アラハ充分  
テアル

約定セル労働ニ關係ナキ命令ハ本條例ニ於テハ最早ヤ罰セラレナイ例ヘハ労働者カ其ノ宿舍ヲ清  
潔ニ保タサル義務ノ如キテアル

第三十六條ニ於テ「安寧秩序ニ對スル之ト同種ノ罪科」ノ句ヲ削除シタル爲舊苦力條例ト異リ違  
反ハ限定的トナツタ

即チ上記以外ノ罪科ハ罰セラレナイ  
逃亡ノ初會ニ於ケル執行猶豫ハ實際上不當ナルノ理由ヲ以テ廢止サレタ

契約不履行誘導ニ對スル起訴ハ故意ニ之ヲ行ヒタル場合ノミニ限ラレ無意識ニ行フ誘導ハ處罰セ  
ラレサルコトカ明カニセラレタ之ニ該當スルモノハ例ヘハ逃亡苦力ナルコトヲ知ラスシテ之ヲ宿  
泊セシメタル如キ場合ヲ云フ

### 第七章 第四十一條—第四十六條

#### 刑罰制度ノ漸廢並ニ一時的廢止

新苦力條例ノ目的カ刑罰制度ノ下ニ行フ労働ヲ漸次廢止シ自由労働ヲ以テ之ニ替ヘ契約苦力數ヲ  
對比的ニ減少セシムルニ在ルコトハ已ニ指摘シタル通りテアル

第四十一條ハ一九二一年又ハ夫レ以前ニ開カレタル企業ニ在リテハ契約及非契約苦力ノ比率ハ左  
ノ通りナルヘキコトヲ規定シテキル

A	一九三二年一月一日ヨリ	非契約苦力	二五%以上	契約苦力	七五%以下
B	一九三四年一月一日ヨリ	同	四〇%同	同	六〇%同
C	一九三六年一月一日ヨリ	同	五〇%同	同	五〇%同

即チ之等ノ企業ニ在リテハ一九三六年一月一日ニハ少クトモ半數ノ非契約苦力ヲ使用シテ居ラネ  
ハナラヌ

一九二二年乃至一九二七年ニ開カレタ園ニ在リテハ開園後十一年目、十三年目、十五年目ノ一月  
一日ニ前記比率ヲ持ツテ居ラネハナラヌ一九二八年乃至三〇年ニ開キタル園ニ在リテハ一九四二  
年一月一日現在ノ割合カ五〇%對五〇%ニ達シテ居ラネハナラヌ

一九三一年乃至三四年ニ開カレタル企業ニ在リテハ一九四二年一月一日以後四〇%對六〇%ノ比率ナルヲ要シ一九三五年乃至一九三六年ニ開カレタル園ニ在リテハ一九四二年一月一日ニ二五%對七五%ノ比率ヲ有スヘキコトカ規定セラレテキル

故ニ一九二八年乃至三〇年ニ開カレタル企業ハ單ニ一九四二年一月一日ニ於テ五〇%對五〇%ノ比率ヲ有シテ居レハヨイ譯テ夫レ迄ハ全部契約苦力ニヨツテ作業シテ差支ナシト云フ自由カ與ヘラレテ居ルノテアル

茲ニ説明セル縮減計畫ニ對シ使用主ハ前記比率ノ範圍ニ於テ必要ナル自由苦力ヲ瓜哇ヨリ或ハ又其ノ契約苦力ヨリ自給シ得ルノテアル後者ノ場合ハ其ノ苦力中ヨリ瓜哇人或ハ支那人男女老幼ノ如何ヲ問ハス自由苦力トシテ差支ナイ

之等ノ自由苦力トハ成文契約ヲ結フ事カ獎勵サレテキル「デリー」栽培協會及「アフロス」ハ其ノ雛形ヲ定メ「アフロス」ノ雛形ハ一九三一年三月十二日付回章第九七八號「デリー」栽培協會ノ雛形ハ一九三〇年十月三十日付回章第二一九九號ヲ以テ夫々會員ニ配布シタ

一九二一年又ハ夫レ以前ニ開カレタル企業ニ對スル歩合ハ會社及管轄區ヲ基本トシテ計算セラレ即チ各企業別ニ例ヘハ一九三六年一月一日ニ五〇%對五〇%ノ割合ヲ要セスシテ一九三六年一

月一日ニ於テ勞働監督官ノ同一管轄區ニ於ケル(勞働一等監督官ノ管轄區)同一使用主ノ總テノ企業ニ於ケル合計苦力ノ内少クトモ五〇%カ非契約苦力テアレハヨイノテアル

故ニ有利ナル一園ニ在リテハ非契約苦力ノ數カ契約苦力ノ數ヲ超過シ同一會社ノ不利ナル園ニ於テ五〇%以上ノ刑罰制度ノ下ニ働ク苦力カアツテモ差支ナイ

會社全體ニ對スル割合ハ上記ノ通りテアルカ各企業別ノ最低歩合ハ左ノ通り定メラレテキル

一九三二年一月一日ヨリ 一〇對九〇

一九三四年同 二五對七五

一九三六年同 三五對六五

一九三八年同 五〇對五〇

勞働監督局ハ會社ヲ基本トスル計算法ヲ一監督區内ノ其ノ指定スル一部ニ限定スルコトヲ定メルコトモ出來ル

一九三二年、一九三四年及一九三六年一月一日ヨリ遅クトモ二ヶ月以前ニ使用主ハ當該一等勞働監督官ニ一九三二年及一九三三年、一九三四年及一九三五年並ニ一九三六年及一九三七年ニ其ノ各企業別ニ有スヘキ契約苦力、非契約苦力ノ割合ヲ報告セネハナラヌ

企業ノ擴張ニ對シテモ普通現存企業ニ對スルト同一ノ比率カ準用セラレル但シ一九二八年一月一日以降ニ成立シ又ハ成立スヘキ擴張カ五〇〇「ヘクター」ヨリ廣ク或ハ當該園ノ既植面積ノ少クトモ五〇%ニ上ルトキハ右年度ニ開キタル又ハ其ノ後開カルヘキ（一九二八年以降）企業ノ現存比率ヲ有セハ足り既存企業ノ夫レニ依ルノテハナイ

斯カル擴張ハ現存企業ノ獨立セル一部分ト見做サレ之ニ對シテハ別管理ヲ行フヲ要スル

若シ使用主カ一九二八年以降ノ年度ニ於テ成立シタル或ハ成立スヘキ擴張カ上記條件ニ副フモノト認ムル農業租借地ニ於ケル擴張ナルトキハ當該管轄區ノ勞働監督官ニ左記書類各二通ヲ添ヘテ申請スルノテアル

一、企業ノ既植面積及開墾植付クヘキ部分ノ面積明細

二、當該土地ノ明瞭ナル地圖

使用主ハ擴張面積確定ノ爲メ専門的調査ヲ自費ヲ以テ行ハネハナラヌ當該期間經過後若シ擴張カ上記條件ヲ充タサ、ルトキハ特別ナル事情アル場合ヲ除キ既存ノ母園ニ適用セララルル歩合カ自働的ニ準用セラレル

各異リタル年度ニ開カレタル企業ノ合併又ハ分割ノ場合ハ斯クシテ新ニ形成セラレタル企業ニ對

スル比率ハ當該一等勞働監督官カ公平ニ之ヲ定メル

事業開始年度トハ企業カ最初契約苦力ヲ以テ作業ニ着手シタル年ヲ云フ此ノ年度ハ當該一等勞働監督官カ各園別ニ決定スル

若シ企業カ開墾着手後一時事業ヲ中止シタルカ爲メ契約苦力ヲ全然又ハ殆ト使用セサルニ至リタルトキハ該企業カ再ヒ新契約苦力ヲ以テ作業ニ着手シタル年ヲ開墾年度ト看做ス

如何ナル場合ニ於テモ例ヘハ作物ノ植替又ハ企業讓渡ノ如キトキハ其ノ瞬間ニ於テ通常ノ營業ヲ爲セルヤ定住ノ勞働者アリヤ否ヤカ基準トセラレル

然ラハ非契約苦力トハ如何ナル種類ノモノヲ云フカ非契約苦力トハ

一、一九一一年法律第五四〇號ニヨリ契約ヲ結ヘル一切ノ自由苦力テ此ノ種勞働者數ノ決定ニ

ハ左ノ計算法ヲ用フル

作業シタル自由苦力ノ日數ヲ検査前月ヨリ連續セル十二ヶ月溯リテ合計シ其ノ和ヲ企業カ營

業シタル同一年間ノ日數最高三百日ヲ以テ除ス故ニ企業ニ於テ一年間三百日以上就業シタル

苦力ニ非サレハ一勞働者ト看做サレナイ

（註）自由苦力カ就業セサル休日モ若シ賃銀全額ヲ支拂ヒ居レハ作業日數ニ加算シ得ル

二、任意苦力即チ一九一一年法律第五四〇號ニ基キ契約ヲ結ヒ得サルモノ（土着民、萬律（註、苦力頭 Mandoor）等）ヲ云フ但シ此ノ種類ノ苦力數決定ニハ檢査前月ヨリ最近十二ヶ月間ニ彼等ニ支拂ヒタル總賃銀額ヲ求メ企業カ營業シタル合計日數最高三百日ヲ以テ除シテ行フ比率適用ニ當リ此ノ種ノ苦力ヲモ計算ニ入レルニハ特ニ此ノ勞働者ニハ賃銀臺帳ヲ備ヘテ置ク必要カアル

未成年者ノ勞働ヲ計算ヨリ除外スル爲メ制限カ付サレテアル即チ人數決定ニ方リ計算スヘキ勞働者ノ日給ハ少クモ移民契約中ノ女苦力ノ日給ヨリ低クテハナラヌコトテアル但シ勞働者カ手間賃仕事ヲ行フ場合ニ於テ彼等カ大人ト同様ナル仕事ヲ行ヒタルコトカ正規ノ賃銀臺帳ニヨリ判明スルトキハ假令上記最低賃銀ヲ所得セサル場合ニモ人數ニ加算シ得ル請負者ノ下ニ働ケル苦力モ其ノ正規ノ賃銀臺帳サヘ備ヘテ居レハ任意苦力ト同様ニ認メラル（但シ圖本來ノ目的タル開墾維持等ニ從事シタル場合ニ限ラレル）制限規定ノ徹底的履行ノ保證トシテ本條例ニ於テハ司法大官ハ當該園ニ對シテ刑罰制度ヲ附セル新契約ノ締結ヲ禁シ得ルノ權能ヲ與ヘテキル更ニ最後ノ處置トシテハ總督ニ於テ企業カ結ヒタル凡テノ契約ヲ解除シ得ルコトトナツテキル營業ノ位置、性質或ハ豫期セサル故障ノ爲メ不利ナ状態ニ在ル企業ニ對シテハ總督或ハ其ノ委任

ニヨリ州長官ハ上記比率ノ免除ヲ許可スル事カ出來ル

第八章 第四十六條—第四十九條

監督

二、三ノ小修正並ニ用語ノ改正ノ外當該條項ハ何等重要ナル變更ヲ加ヘラレナカツタ

第九章 第四十九條—第五十條

過渡並ニ終結規定

制限規定ハ一九三二年一月一日ヨリ施行サレルカ新苦力條例ハ一九三一年七月一日ヨリ施行セラル

二、一九三一年苦力條例施行規則

第一條

第一項 使用主ハ一九三一年苦力條例第十二條第二項記載ノ企業或ハ企業ノ一部ニ不當状態アリトノ通告ヲ受ケタル後右通告ニ州長官カ定メタル期限内ニ該不當状態一掃ニ必要ナル處置ヲ執ルヲ要ス

第二項 右期限經過後勞働監督局ノ當該一等監督官ハ調査ヲ行ヒ州長官ニ報告ヲ提出ス州長官ハ



其ノ意見ヲ具シ之ヲ司法長官ニ送達ス

第三項 若シ司法長官ニ於テ該不當状態カ完全ニ除去セラレストノ意見ヲ有スルトキハ其ノ意見ニ付州長官ニ通達シ書留文書ヲ以テ當該使用主ニ之ヲ通告ス

第四項 前項記載ノ通告ヲ發シタル日ヨリ一九三一年苦力條例第十二條第三項及第四項記載ノ爭議發生スルモノトス

第二 條

第一項 前條第四項記載ノ如キ各爭議ニ對シテハ左記三委員ヨリ成ル委員會ニ於テ實際調査ヲ行フ

a 州長官ノ任命スヘキ内務行政官吏一名本官吏ハ同時ニ委員長トシテ就任ス

b 外領勞働監督長官ノ任命スヘキ勞働監督官一名

c 使用主ノ任命者一名

第二項 前項c段記載ノ委員任命通告ハ州長官ニ對シ第一條第三項記載ノ司法長官ノ通告ニ定メタル期限内ニ行ハサルヘカラス若シ此ノ任命通知カ右期限内ニ州長官ニ達セサルトキハ該園支配人委員會委員トシテ就任ス

第三 條

第一項 前條記載ノ委員會ハ爭議發生後三ヶ月以内ニ其ノ結果ヲ州長官ニ報告シ州長官ハ之ニ意見ヲ具シテ司法長官ニ送付ス

第二項 司法長官ハ爭議ヲ決裁シ其ノ決定ニ付テハ之ニ至リタル裁量ニ付記載ノ上州長官ニ通告シ書留文書ヲ以テ當該使用主ニ通達ス

第三項 前項記載ノ決定カ勞働者ノ收入ニ關スルモノナルトキハ前項記載ノ書留文書發送後一ヶ月以内ニ使用主ハ必要處置ヲ講スヘキモノトス

第四項 該決定ハ爭議發生ノ瞬間ニ溯ツテ效力ヲ生ス

第四 條

第一項 若シ勞働監督局當該一等監督官カ前條第三項記載ノ如キ決議ニ導キタル状態カ已ニ存在セスト認メタルトキハ事由ヲ具シタル提議書ニヨリ該決議ノ撤回又ハ變更ニ付州長官ニ申請ス州長官ハ右提議書ニ其ノ意見ヲ具シ司法長官ニ之ヲ送達ス

第二項 若シ使用主カ勞働監督局當該一等監督官ト意見ヲ異ニシ前條第三項記載ノ如キ決議ニ導キタル状態カ已ニ存在セストノ意見ヲ有スルトキハ前條第三項記載ノ書留文書發送後少クトモ



一ケ年經過後司法長官ニ對シ該決議修正ニ對スル事由ヲ具シタル請願書ヲ提出スルヲ要ス該請願書ニハ使用主ノ名義ニヨリ第二條記載ノ如キ委員會ノ一員トシテ出席スヘキ者ヲ同時ニ指名スヘシ

第三項 司法長官ハ右請願書入手後直ニ此ノ旨ヲ當該州長官ニ通告ス次テ上記州長官並ニ外領勞働監督官ハ第二條規定ノ委員會ノ委員トシテ使用主カ任命シタル者ト共ニ列席スヘキ各一名ノ官吏ヲ任命ス此ノ委員會ハ上記通告ノ日附後三ヶ月以内ニ實際調査ヲ行ヒテ其ノ報告並ニ決定ニ付州長官ニ報告ス州長官ハ之等ノ書類ニヨリ前條第一項ノ規定ニ基キ處理ス

第四項 司法長官ハ第一項記載ノ提議並ニ前項規定ノ書類入手後直ニ州長官ニ其ノ動因ニ付記載シ且書留文書ヲ以テ當該使用主ニ前回決議ヲ如何ナル程度迄變更シタルヤニ付キ通告ス

第五項 使用主ハ前條記載ノ書留文書ノ日付後一ケ年經過後ニ限り本條第二項記載ノ如キ請願書ヲ更メテ提出スルコトヲ得

#### 第五條

第一項 一九三一年苦力條例第四十一條ノ規定適用ニ方リ非契約苦力トハ左記ノ者ヲ謂フ

a 一九一一年法令第五四〇號第二節規定ノ如キ自由苦力ノ登記簿ニ登録セル總テノ者(現行

規定又ハ場合ニヨリ追テ修正及追補セラレヘキ規定ニヨリ)但シ此ノ種苦力數ノ決定ハ決定ヲ行フヘキ検査前最近十二ヶ月内ニ就業シタル自由苦力ノ合計日數ヲ企業カ營業シタル同一期間ノ最高三百日ヲ以テ除シテ行フ

b 任意苦力但シ此ノ種苦力數ノ決定ハ決定ヲ行フヘキ検査前最近十二ヶ月間ニ彼等ニ支拂ヒタル賃銀總額ヲ企業カ營業シタル同期間ノ最高三百日ヲ以テ除シテ行フ

第二項 前項b段記載ノ如キ任意苦力ニハ一九三一年苦力條例或ハ一九一一年法律第五四號第二節ニ該當セサル勞働者ヲモ含ム

a 作業シタル日少クトモ女勞働者カ移民契約ニ於テ受クル賃銀ヲ所得スル者

b 上記最低賃銀ヲ所得セサルモ少クトモ正規ノ賃銀臺帳ニヨリ成人勞働者トシテ就業シタルコト判明スル者

#### 第六條

一九二一年又ハ夫以前ニ開カレタル企業カ同一自然人又ハ法人ニ屬シ勞働監督官ノ同一監督區内又ハ勞働局長官カ指定スル同一監督區内ニ位スルトキハ使用主ハ一九三二年、一九三四年及一九三六年一月一日ヨリ少クトモ二ヶ月前ニ當該勞働一等監督官ニ一九三二年及一九三三年、一九三

四年及一九三五年並ニ一九三六年及一九三七年ノ年度ニ於テ上記諸企業ノ各一園ニ於テ一九三一年苦力條例第四十一條第一項末尾規定ノ最少率ヲ守ルヘキカニ付契約苦力及非契約苦力間ノ比率ヲ當該監督官ニ通告スルヲ要ス

### 第七條

第一項 一九三一年苦力條例第四十一條第四項記載ノ如キ擴張ハ之カ農業企業園ナルトキハ同條第三項記載ノ期間ニ於テ最少五〇〇「ヘクタール」ノ面積ヲ擴張ノ爲メ開墾植付又ハ開墾植付クヘキ場合或ハ上記期間何レカ一期間ノ開始ニ當リ企業ノ植付面積カ一〇〇〇「ヘクタール」ヲ超過セス當該期間開始ニ於ケル該企業植付面積ノ最小五割ニ上ル面積ヲ擴張ノ爲メ開墾、植付ケ又ハ開墾植付ケントスル場合ヲ之ト看做ス農業企業以外ノ其ノ他ニ對シテハ該擴張ノ爲メニ就業シ或ハ移入シタルカ爲メ當該期間末ニ於ケル労働者數カ當該期間開始ニ方リ企業ニ就業シ居リタル苦力數ノ最少五割ニ上リタル場合或ハ上ルヘキ條件トス

第二項 若シ使用主カ一九三一年苦力條例第四十一條第三項記載ノ期間ノ内何レカノ時期ニ於テ成立セル或ハ成立セシムヘキ擴張カ漸次所定ノ條件ニ副ヒ或ハ副フヘキモノナリトノ意見ヲ有スルトキハ直ニ當該擴張ヲ行フ企業所ノ存在スル管轄區ノ労働監督官ニ左記夫々二通ヲ添へ出

願スルヲ要ス

a 擴張カ農業企業園ナルトキ

1 當該期間開始ニ於ケル企業ノ植付面積並ニ右期間ニ開墾植付ケタル又ハ植付ケラルヘキ面積ニ關スル報告

2 第一段記載ノ面積ヲ明瞭ニ示シタル地圖

b 擴張カ農業企業園以外ノモノナルトキ當該期間開始並ニ終了ノ際ニ於テ企業ニ就業シ居タル又ハ使用スヘキ労働者數ノ報告

第三項 前項b段記載ノ労働者數ニハ一九二八年乃至一九三〇年度ノ擴張ナルトキハ當該期間ノ開始並ニ終了ノ際企業ニ就業シ居タル契約苦力並ニ第五條第一項a段記載ノ自由苦力ヲ計算ス一九三一年乃至一九三四年及一九三五年乃至一九三六年度ノ擴張ニ對シテハ第五條第一項b段記載ノ任意苦力ヲモ計算スルコトヲ得

第四項 第一項記載ノ擴張面積ノ決定ニ當リテハ若シ外領労働監督長官カ必要アリト認メタルトキハ使用主ハ開墾及植付面積ノ調査ヲ承認スルノ義務ヲ有ス

此ノ調査ハ司法大臣ノ任命シタル専門家ニ依リテ行ハル本調査ノ費用ハ若シ第一項規定ノ條件

ニ副ハサル擴張ナルコト判明シタルトキハ當該使用主ノ負擔トス

第五項 更ニ使用主ハ第一項記載ノ擴張ニ關シ右擴張地ニ作業セル労働者ニ對シテハ別管理ヲ行フノ義務ヲ有ス

第六項 一九三一年苦力條例第四十一條第三項記載ノ時期經過後右期間内ニ成立シタル擴張カ上記第一項ニ定ムル條件ニ副ハサルコト判明シタルトキハ労働局長官ノ判斷ニヨリ特別ナル事情アル場合ヲ除キ當該企業カ守ルヘキ契約苦力、非契約苦力ノ比率ハ該擴張ニ對シテモ效力ヲ有ス

第七項 本條第四項及第五項ニ依リ發生スルノ義務ヲ當該使用主カ履行セサルトキ亦同シ

第八條

一九三一年苦力條例第四十一條第一、二、三項記載ノ期間ニ開カレタル各異リタル企業ノ合併又ハ分割ノ場合ニアリテハ労働監督長官カ現行規定ニ基キ出來得ル限り公平ニ上記方法ニヨリ新ニ編成セラレタル企業ニ於テ占ムヘキ契約苦力ト非契約苦力トノ比率ヲ定ム

第九條

第一項 一九三一年苦力條例ノ精神ニ於ケル一企業ノ開始年度トハ該企業カ契約苦力ヲ使用シ始

メタル年ヲ謂フ

第二項 一企業カ前項記載ノ作業開始後一時該事業ヲ中止シタルカ爲メ契約苦力ヲ全然又ハ殆ト使用セサルニ至リタル場合一九三一年苦力條例ノ精神ニ於ケル開始年度トハ該企業カ再ヒ募集シタル或ハ他ノ企業ヨリ讓受シタル契約苦力ヲ以テ作業ヲ開始シタル年ト看做ス

第三項 前記第二項記載ノ開始年度ノ決定ハ各企業別ニ其ノ企業所在地ノ労働一等監督官之ヲ行フ本件ニ關シ使用主ト上記一等監督官トノ間ニ意見ノ相違アルトキハ労働局長官之ヲ決ス

第十條

第一項 一九三一年苦力條例第四十一條第一項ノ規定ハ「ベンクトーレン」州「レジャン」郡ニ適用ス但シ之ニ記載ノ比率ハ右ノ通りトス

a	一九三二年一月一日以降	契約苦力	最高八五	契約苦力	最小一五
b	一九三四年同	同	同七〇	同	同三〇
c	一九三六年同	同	同六〇	同	同四〇

第二項 一九二一年以降ニ開カレタル上記郡部ニ於ケル企業ニ對シテハ一九三一年苦力條例第四十一條第二、三項ノ規定ヲ適用ス

第十一條

第一項 「メダン」ニ勞働委員會ヲ設立シ「スマトラ」東海岸州勞働狀態調查改善常置勞働委員會ト稱ス

第二項 「スマトラ」東海岸州知事ヲ議長並ニ委員トシ他ノ委員ハ總督之ヲ任命ス但シ本委員會ハ議長ノ外、内務行政官吏二名、外領勞働監督官二名、「スマトラ」東海岸州ニ於ケル民間經營大事業代表者四名、助手代表者二名、土人並ニ支那人委員各一名ヲ以テ組織ス  
得票同數ナルトキハ議長之ヲ裁決ス

第三項 本委員會ノ書記長ハ議長之ヲ任命ス

第十二條

一九三一年苦力條例第四十五條ニヨリ發生スル職責ノ外前條記載ノ委員會ハ意見ヲ求メラルルト否トニ拘ラス政府、司法長官、「スマトラ」東海岸州知事、勞働局長官ニ對シ「スマトラ」東海岸州ニ於ケル勞働狀態改善ノ爲メ行フヘキ一切ノ處置ニ付キ意見ヲ上申スルヲ要ス

第十三條

第一項 第十一條記載ノ委員會ハ其ノ職務遂行ノ爲メ取締規則ヲ制定スルヲ權能ヲ有ス

第二項 委員會ノ職務ニ關シ委員ノ支出シタル費用ハ本委員會ノ議長カ旅行局長官ト協議シテ定

ムル規則ニ基キ國庫ニ於テ辨償ス

第十四條

一九三一年苦力條例第十二條第一項記載ノ義務履行ニ對スル管理ノ爲メ各支配人ハ三ヶ月毎ニ勞働監督官ニ勞働局長官ノ定ムル雛形ニヨリ賃銀表ヲ提出スル義務ヲ有ス

第十五條

本命令書ハ一九三一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(一九三一年六月二十五日總督決議書第三十二條)

三、一九三一年苦力條例第五條第二項及第十二條第四項 a 段施行規則

第一條

一九三一年苦力條例第五條第二項記載ノ管轄區ヲ左ノ如ク定ム

a 「アンボイナ」郡

b 「タルナーテ」郡

第二條

第一項 一九三二年苦力條例第十二條第四項a段記載ノ労働者日常ノ生計必需品ハ左ノ二種ニ區別ス

a 二ケ年間ニ對シ計算スヘキモノ  
 b 一ケ年間ニ對シ計算スヘキモノ  
 第二項 a段ノ種類ニハ左記ヲ包含ス

男

作業「ズボン」	一二
上衣	九
作業帽	一〇
「サロロン」	六
「カイン・カバラ」	三
竹帽子	一二
産	三

女

作業「サロン」	一二
上衣	一二
下着	一〇
「サロロン」	六
櫛	二
竹帽子	一二
産	三

枕	一
枕被	二
毛布	一
帶	三
櫛	一
「ラ・ン」	二
「ホヤ」	六
燈心	一
錠前	二
釜	一
「フライ・パン」	一
火搔	一
湯沸	一
石油空罐	六

枕	一
枕被	二
毛布	一
腰紐	二
「ラ・ン」	二
「ホヤ」	六
燈心	一
錠前	二
釜	一
「フライ・パン」	一
火搔	一
湯沸	一
石油空罐	六

野	椰	蕃	藥	鹽	魚	鮮	椰	石	茶	砂	煙	燐	棒
菜	子	椒	味		肉	油	子	油	糖	草	寸	狀	石
八〇盞	四八個	七三〇	一一盞	五・五盞	二四盞	八盞	二〇瓶	三六瓶	二四包	八盞	一八五包	八包	一二個

野	椰	蕃	藥	鹽	魚	鮮	椰	石	茶	砂	煙	「セ レ ー」	石
菜	子	椒	味		肉	油	子	油	糖	草	葉	灰	
六四盞	三八個	七三〇	九盞	四・五盞	二〇盞	六盞	一六瓶	三六瓶	二四包	八盞	六〇包	一二六〇枚	〇・二四五盞

第三項 b段ノ種類ニハ左記ヲ包含ス

米	硝	藥	味	土	野	木	唐	陶	「ナ イ フ」	井	皿
	子	罐	噌 濾 シ	瓶	菜	製	箕	製	匙		
二四〇盞	一	一	三	一	一	二	一	三	二	一	二

男

米	硝	藥	味	土	野	木	唐	陶	「ナ イ フ」	井	皿
	子	罐	噌 濾 シ	瓶	菜	製	箕	製	匙		
二〇〇盞	一	一	三	一	一	二	一	三	二	一	二

女

散	髮	代	一二	「ガンビア」	〇・三〇〇疋	
				「ビーナン」	〇・三六五疋	
税	金			煙	草	〇・三六五疋
				燐	寸	六包
				石	輪	一二個
				「ハジ」ヘノ謝禮金		
				税	金	

(註) 「ハジ」(Haji)トハ同教ノ「メッカ」參拜者ヲ指ス語ニシテ本費目ハ右ニ關スル宗教的ノ支出費目ナリ

第三條

第一項 勞働監督官ハ外領勞働監督長官ノ定ムル方法ニヨリ第二條記載ノ費目ニ要スル勞働者ノ支出額ヲ検査ス右ニ基ク意見ニ付勞働監督官ハ定時勞働一等監督官ニ報告シ一等監督官ハ此ノ報告ニ付州長官ニ之ヲ通告ス若シ勞働者ノ收入カ一九三一年苦力條例第十二條第四項規定ノ要求ニ副ハサルモノト認メタルトキハ勞働監督官ハ其ノ旨一等勞働監督官ニ通知シ一等監督官モ亦同一意見ナルトキハ州長官ニ之ヲ通告ス

第二項 一九三一年苦力條例第十二條記載ノ如キ緊急ナル爭議ニ方リテハ州長官ハ必要アラハ第二條記載ノ費目ニ勞働者カ支出スル額ニ付全部或ハ一部ニ付一層嚴密ナル調査ヲ命令スヘシ本調査ハ州長官ノ任命スル行政官吏一名並ニ當該一等勞働監督官ノ任命スル官吏一名ニ依リ行ハル本調査ニ任スル官吏ハ共同シテ當該企業支配人或ハ其ノ代理者ト共ニ且協議後實地ニ付キ必要ナル材料ヲ蒐集シ共同シテ或ハ單獨ニ州長官ニ報告ヲ提出ス

第四條

一九三一年苦力條例第十二條第四項記載ノ如キ勞働者日常ノ生計必需品購入ニ要スル額ハ州長官第三條記載ノ報告ヲ參照シ且本決議書第二條ヲ考慮シテ之ヲ定ム  
 一年ノ日數ハ三百六十五日トシテ計算ス  
 (一九三一年七月三日蘭領印度總督決議書第一三號)

四、「メタン」勞働者登録局設立法案 (一九三一年二月二十五日總督決議書)

第一條

第一項 「メタン」ニ移住勞働者ノ登録局ヲ設立ス  
 第二項 本登録局ハ法人トス

第三項 本登録局ハ左記事項ヲ執掌ス

a 「スマトラ」東海岸州「アッチェ」及屬領州中「アッチェ」北海岸、「アッチェ」東海岸並ニ「ガヨ」及「アラス」諸郡ニ海外ヨリ移住シ來タル労働者ノ内土人並ニ東洋人ノ土人階級ニ屬スル者ノ登録上ノ管理

b 第五條記載移民基金ノ管理及維持

第四項 本登録局ニハ局長並ニ局員トシテ「スマトラ」東海岸州知事ヲ局員トシテ内務行政官吏一名、労働監督官一名及前項a段地方在住民二名ヲ置ク最後ノ四名ハ上記州長官ノ推薦ニ基キ最長期三ケ年毎ニ總督之ヲ任命ス上記州長官ハ在住民推薦ニ關シ上記地方現存ノ移民ニ關係アル使用主ノ協會ト協議スヘキモノトス

第五項 本登録局ハ本條例ノ規定ヲ遵守シ其ノ設立職務財産並ニ之カ管理ヲ包括スル規程並ニ第一條第三項第一段規定ノ決濟ヲ行フヘキ規定ヲ定ム右規定並ニ之カ修正ハ總督ノ認可ヲ得テ施行スルモノトス

第六項 本登録局ハ第二條及第三條記載ノ政府ノ命令書ヲ以テ定ムヘキ規程ニ關シテハ總督ニ其ノ意見ヲ上申スヘシ

## 第二 條

第一項 使用主ハ第一條第三項a段記載ノ區域ニ海外ヨリ移住シ來リタル其ノ雇用スル土人並ニ東洋人ノ土人階級ニ屬スル労働者ニ付テハ一人毎ニ本登録局ノ定ムル期間以内ニ登録スルヲ要ス同時ニ使用主ハ前條第五項記載ノ規定ヲ以テ之ニ關シ定ムル所ニ從ヒ労働者ノ移民料ヲ本登録局ニ支拂フモノトス

第二項 政府ノ命令書ヲ以テ労働者ノ登録、使用主ノ記録スヘキ登録簿並ニ其ノ他ノ書類及労働者ニ關シ本登録局ニ提出スヘキ報告ニ關スル規定ヲ定ム

第三項 使用主ハ本登録局カ之カ爲メニ任命セル係員ニ對シ本條例ニ基ク規定ニヨリ記録スヘキ登録簿並ニ其ノ他ノ書類ヲ閱覽ニ供シ本條例ニ規定セル労働者ノ住居ニ立入ラシムル義務ヲ有ス

第四項 何人ヲ以テ本條例ニ依ル使用主ト看做スヘキヤハ政府命令書ヲ以テ之ヲ定ム

## 第三 條

第一項 使用主ハ毎年本登録局ニ對シ其ノ職務遂行ノ爲メニ要スル經費ヲ負擔スル爲メ寄附金ヲ支拂フ義務ヲ有ス



第二項 使用主ハ本登録局ノ定ムル期限内ニ使用主ノ爲メナラスシテ海外ヨリ移住シタル労働者ヲ使用スルトキハ各人毎ニ之ヲ移民局ニ申告スル義務ヲ有ス

第三項 前回ノ労働契約ヲ契約終了前又ハ法律上定メタル期限前ニ恣ニ破棄シタル労働者ノ雇用ニ對シテハ本條第五項ノ規定ヲ除キ使用主ハ本登録局ニ對シ一時の寄附金ヲ支拂フ義務ヲ有ス本寄附金ハ尙他ノ使用主ト労働契約ヲ結ヒ居レル労働者ヲ雇用スル場合ハ一層多額ヲ支拂フモノトス

第四項 第二項記載ノ労働者カ使用主ノ爲ニ服務スル期間中ハ使用主ハ本條第五項ノ規定ヲ除キ右ノ外登録局ニ毎月寄附金ヲ支拂フ義務ヲ有ス

第五項 本條例第三項及第四項規定ノ寄附金ハ左記労働者ニ對シテ支拂フヲ要セス

a 第二條第一項ノ規定ニ基キ登録セサル者

b 會規定ニ依リ登録セル者ニシテ企業境界外ニ居住シ本登録局ノ判斷ニ依リ規則正シク企業ノ仕事ニ從ハサル者

c 第一條第三項a段記載ノ區域ニ少クトモ一ケ年間居住セル者

第六項 本條前諸項規定ノ寄附金ノ改訂ハ政府ノ命令書ヲ以テ之ヲ行フ

#### 第四 條

第一項 第三條規定ノ寄附金ノ徴收ハ本登録局ニ於テ之ヲ行フ

第二項 若シ第三條又ハ之ニ基キ定メラレタル規定ニヨリ支拂フヘキ金額又ハ一部ヲ之ニ對シテ定メラレタル期限内ニ納入セサルトキハ本登録局ハ滯納者ニ對シ書留文書ヲ以テ同書受取後八日以内ニ同書記入額ヲ支拂フヘキ旨ヲ催告ス

第三項 右催告期限内ニ支拂ニ應セサルトキハ本登録局々長ハ直接執行權ヲ有スル強制命令ヲ發ス該強制命令ハ「メダン」地方法院長之ヲ執行ス本強制命令ハ行政府ノ定メタル課税臺帳登記簿原簿又ハ目錄ニ包含スル税金徴收ニ對シ定メタル規程並ニ方法ニ基キ同蘭領印度内ニ於テ執行ス

#### 第五 條

第一項 本條例ニ基キ使用主ヨリ徴收シタル寄附金並ニ本登録局ニ收納スル其ノ他ノ資財ニヨリ移民基本金ヲ積立テ且維持ス

第二項 本基金ハ左記目的ノ爲メニ之ヲ使用ス

a 本登録局ノ職務遂行ニ要スル支出支辨

b 移民費決濟

- c 労働者ノ移住ニ附帶スル金錢上ノ負擔制限ニ關スル處置ニ對スル支拂
- d 本登録局ノ目的ニ要スル準備金積立

第六條

第一項 左記ニ該當スル使用主ハ夫々百盾以下ノ罰金ニ處ス

a 第二條第一項ニヨリ與ヘラルル規程ヲ遵守セサル者

b 第三條第二項規定ノ申告書ヲ定メラレタル期限内ニ提出セサル者

c 第二條第一項及第三項記載ノ義務ヲ履行セサル者

第二項 本條例ニヨリ處罰セラルル行爲ハ之ヲ違反(註 輕微ナル違法行爲)ト看做ス

第三項 一般ノ違反檢察ニ任スル官吏並ニ雇員ノ外第二條第三項規定ニヨリ本登録局ノ任命スル者モ亦本條例ノ違反檢察ニ任スヘシ

第七條

第二條第一項及第三條第二項記載ノ規程ハ之ヲ官報ヲ以テ公布ス

第八條

本條例第一條ハ一九三二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ他ノ條項ハ一九三二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

而シテ右ヲ周知セシムル爲メ茲ニ蘭領印度官報ヲ以テ公布ス

五、「メダン」労働者登録局設立條例註釋(「アフロス」編)

總則

「スマトラ」東海岸州ノ如キ勞力不足ノ地ニ在リテハ海外ヨリ苦力移入ニ多大ノ費用竝ニ大規模ナ募集機關ヲ設ケルノ要カアリ又刑罰制度漸廢ノ結果ニ依リ使用主ト苦力ノ關係ハ從前ヨリ弛緩シ今尙其ノ勞力ヲ海外ニ俟タナケレハナラナイ事情ニアル多クノ使用主ハ將來益々地方的勞力ヲ使用スルヲ要スルコト、ナリ然カモ其ノ苦力ハ他ノ使用主ノ費用ニテ移入シ來ルモノナルヲ保障シ難イ即チ換言スレハ高キ募集費ヲ支拂ヒタル苦力カ短期間其ノ使用主ノ下ニ働キタル後他ノ使用主ノ爲メニ誘拐サルルコトナシト云ヒ難イ此處ニ大ナル不公平カ生スル此ノ不公平ハ相互ノ口約ノミヲ以テシテハ排除セラルヘキモノテナイ即チ自己ノ利益ノ爲メ斯カル約束ヲ無視スル使用主ハ常ニ發見セラレルテアラウスカル不徳行爲ヲ防ク唯一ノ保障トシテハ法ノ力ヲ以テ規定ヲ設ケルヨリ外ニ道カナイ之ヲ以テ使用主ニ對シ募集費ヲ合理的ニ分擔セシメルノミナラス使用主全

體ノ連絡ヲ強制シ得ルコト、ナル此ノ目的ヲ達成セントシテ「メダン」ニ於ケル登録局カ設立サレタノテアル

本登録局ノ主要ナル職務ハ土着民竝ニ東洋人ノ土人階級ニ屬スル海外ヨリ移入シ來ル労働者（契約、自由）ノ登録ニ在ル之ニヨリ移民ノ戶籍臺帳ヲ作成スルノテアル

本登録局ニ對スル使用主ノ主ナル義務ノ一ツハ地方ニテ募集シタル即チ海外ヨリ其ノ使用主ノ爲メニ移住シタル者以外ノ各苦力ノ雇傭ニ付申告スルコトテアル地方ニ於テ募集シタル労働者ノ内ニハ恐ラク使用主カ其ノ營業ヲ營ム區域ヨリ來レル労働者即チ當該目的ニ對シテハ既ニ考慮シ得ラレサル者モ屢々アルテアラウ但シ其ノ申告カ他ノ使用主ノ募集シタル労働者ニ關係スルトキハ其ノ申告ヲ爲シタル使用主ハ使用ニ方リ直チニ或ハ労働契約期間中ニ本登録局ニ對シ之カ圓滑ナル運行ヲ計ル爲メ或ル一定ノ料金ヲ納入セネハナラス

#### 登録局ノ組織竝ニ作業方法

「メダン」登録局ヲ設立シタル條例ハ單ニ「スマトラ」東海岸州竝ニ之ニ隣接セル「アッチエ」及屬領州、「アッチエ」西海岸竝ニ東海岸、「ガヨウ」、「アラス」諸郡ニ關係ヲ有スルカ若シ將來必要アリト認メタルトキハ出來ルタケ速カニ他ノ區域ニモ之ト同種ノ登録局ヲ設立スル計畫テアル

本登録局ハ法人テアル局長ニシテ同時ニ局員ヲ兼スル知事竝ニ左記局員ヲ以テ組織セラレレル即チ内務行政官一名、労働監督官一名竝ニ本登録局ニ關係アル區域ノ官吏ナラサル住民二名

各局員ニハ代理局員ヲ任命ス會長ヲ除クノ外局員竝ニ代理局員ハ任期三年毎ニ知事ノ推薦ニ依リ總督ヨリ任命セラレレル民間ヨリ選舉スル局員ノ推薦ニ付テハ移民ニ關係アル使用主ノ當該區域現存ノ協會ト協議シテ行フコトヲ要スル

秘書官竝ニ事務員ハ本登録局自ラ之ヲ任命ス一名或ハソレ以上ノ登録「コントローラー」モ亦然リ

本登録局ハ自ラ規則ヲ制定スル事カ出來ルカ施行前總督ノ承認ヲ受クル必要カアル

毎年四月登録局ハ其ノ前年度ニ於ケル職務竝ニ會計管理ニ關シ報告スル義務カアル本登録局ノ局員ハ總テノ帳簿竝ニ書類ヲ檢查シ金錢ノ取締ヲ行フ權利カアル

本登録局ハ毎月一回集合スル外二名以上ノ局員カ事由ヲ具シテ要求シタル場合或ハ事務ヲ圓滑ニ進行セシムルニ望マシイト思ハレタル場合ニ會合スル

有效ナル決議ハ召集ヲ期日内（普通集合開始前四日）ニ行ヒ少クトモ局員三名ノ出席シタル場合ニ限り採決セラレル使用主ハ本登録局又ハ登録局ノ任命シタル「コントローラー」ニ本移民局ノ

圓滑ナル事務ノ遂行上保管スヘキ總テノ登記簿並ニ書類ヲ點檢セシムル義務カアル  
 使用主トハ之ヲ如何ニ解釋スヘキカニ付テハ更ニ政府ノ命令書ヲ以テ定メラレルコトニナツテキ  
 ル  
 少クトモ海外ヨリ移住シ來ル勞働者ヲ或ル人數タケ使用スル土人營業者並ニ請負者ヲモ包含スル  
 モノト思ハレル

#### 登録局ノ職務

既ニ説明シタル如ク登録局ノ主ナル仕事ハ「スマトラ」東海岸州並ニ「アッチエ」及屬領州ノ北  
 海岸、東海岸、「ガヨウ」、「アラス」郡部ニ海外ヨリ移住シ來ル土着民及東洋人ノ内土着民階級ニ屬  
 スル勞働者ノ登録ニアル此ノ登録ハ或ル使用主カ自己ノ爲メニ移住セシメタ者以外ノ苦力ヲ使用  
 セリヤ否ヤヲ管理スルニ必要ナル  
 海外ヨリ新勞働者ヲ移入スル使用主ハ之等ノ勞働者ヲ登録局ノ定ムル期間内ニ登録スル義務カア  
 ル之ヲ怠リタルトキハ百盾以下ノ罰金ニ處セラレル更ニ使用主ハ海外ヨリ自己ノ爲メニ移住シ來  
 ラサリシ各勞働者ノ使用ニ付登録局ノ定ムル期間内ニ申告セネハナラヌ之ヲ怠リタルトキノ罰則  
 ハ前記ト同様テアル即チ之ハ地方ニ於ケル募集ヲ意味シ各地方ニ於テ募集シタル苦力ニ付登録局

ニ申告セネハナラヌトノ意味テアル然ルトキハ登録局ハ其ノ報告（指紋等）ニ基キ登録局ニ一定  
 ノ料金ヲ（下記參照）支拂フヘキヤ否ヤニ付之ヲ定メル

最後ニ登録局ハ登録基金ノ管理並ニ保管ニ任スル

#### 登録局ノ財政

登録局設立條例第三條第一項ニハ左ノ通り定メテアル  
 使用主ハ毎年登録局カ其ノ職務遂行ノ爲メ必要ナル支出賠償ノ爲メ料金ヲ納ムル義務カアル此ノ  
 料金ノ額並ニ計算基礎、計算法ハ政府ノ命令書ニヨリ追テ決定セラレル此ノ計算ノ基礎トシテハ  
 一定期間ニ使用主カ使用シタル勞働者數ニヨリ定メラレルモノト思ハル即チ此ノ料金ハ一種ノ人  
 頭税ニシテ現在病理研究所情報部並ニ指紋局ニ支拂フモノト同様テアラウ此ノ人頭税ノ外使用主  
 ハ自己ノ爲メニ海外ヨリ輸入セサリシ勞働者ノ使用ニ方リ下記例外ヲ除キ登録局ニ一時的料金ヲ  
 納ムル義務カアル此ノ料金ハ前勞働契約ヲ契約期限經過前又ハ法律上定メタル期限前ニ恣ニ破棄  
 シタル勞働者ノ使用ニ方リテハ一層高額ヲ課セラレル

此ノ一時的料金ノ外使用主ハ斯カル勞働者ヲ雇備セル期間中登録局ニ對シ月極料金ヲ支拂フ要ア  
 リ此ノ寄付金額モ同シク政府ノ命令書ニ依リ追テ決定セラレル

之等ノ料金即チ一時的及月極料金ハ左記種類ノ労働者ニ對シテハ徴收セラレナイ

a 條例ノ規定ニ基キ登録局ニ登録ノ要ナキ者（或ル一定ノ使用主ノ爲メニ海外ヨリ移入セラレサリシ労働者）即チ主トシテ登録局ノ設立セラレタル區域ニ於テ出生シタル土着住民ノ苦力

b 條例規定ニ基キ登録スルヲ要スル者ニシテ園外ニ定住シ本登録局ノ判定ニヨリ規則正シク園ノ作業ニ従事セル者即チ殖民竝ニ大工ノ如キ者

c 登録セラレタル者ト雖モ十年以上本登録局ノ設立セラレタル區域ニ定住セル者  
登録局ニ支拂フヘキ料金ノ請求ハ登録局自ラ之ヲ行フ料金ヲ支拂期限内ニ納入セサル場合ハ登録局ハ滞納者ニ對シ書留文書ヲ以テ更ニ負債額ヲ八日以内ニ納付スヘシト督促スル之ヲ怠ルトキハ強制執行處分ヲ適用セラレル

本登録局ノ財産ハ登録基金トシテ積立テラル所謂人頭税ハ本登録局ノ職務遂行ニ要スル支出（使用人ノ給料、事務費其ノ他）ヲ辨濟スルニ仕向ケ海外ヨリ移入シタル労働者ノ地方的使用ニ課セラレル料金ハ移民費用低減ニ使用スル計畫テアル故ニ新労働者ヲ海外ヨリ移入シタル使用主ハ募集費一部ノ償還ヲ得ルコト、ナル

#### 施行期日

登録局設立ニ關シテ定ムル第一條ハ一九三二年七月一日ヨリ施行セラレル其ノ他ノ條項ハ一九三二年一月一日ヨリ施行セラレル

### 第三、外領ニ於ケル土地ノ永租借關係法規

蘭領印度ハ行政區劃上之ヲ(一)瓜哇及「マヅラ」並ニ(二)外領(瓜哇及「マヅラ」以外ノ諸地方)ニ大別ス而シテ民、刑、商法等ノ如キヲ除ク他ノ特別法ハ多クハ瓜哇及「マヅラ」並ニ外領ニ依リ夫々其ノ規定ヲ異ニス

土地ノ永租借ニ關スル法規モ亦外領ニ對シテハ特別法ヲ規定シ居リ之ヲ瓜哇及「マヅラ」ニ於ケル土地法ニ比較スレハ其ノ原則ニ於テハ略同一ナルモ其ノ細則ニ至リテハ甚シキ相違アリ例ヘハ永租借期間ハ總テ七十五年ヲ限度トスルモ永租借地ノ面積ハ瓜哇及「マヅラ」ニ在リテハ一口五百「バウ」以下ナルニ反シ外領ニ於テハ一口五千「バウ」迄許可スルコトナリ居レリ

外領ニ於ケル永租借法ハ更ニ政府ノ直轄地ト土侯自治領トニ依リ二様ノ法規アリ而シテ其ノ規定上大ナル相違ナキモ租借ノ手續及許可ノ形式等ヲ異ニス尙外領中「スマトラ」及其ノ他ニ於テ特殊ノ規定アルモ之等ハ局地的規定ニシテ外領ニ於ケル土地ノ永租借法ヲ分チテ(一)外領ニ於ケル政府直轄地ノ永租借條例及(二)瓜哇及「マヅラ」以外ノ諸地方ノ土侯自治領ニ於ケル土地ノ永租借條例トナス

一、外領ニ於ケル政府直轄地ノ永租借條例（一九一四年法令第三六七號）

第一條

六六

- (一)（一九二三年法令第三五八號ヲ以テ増補）瓜哇及「マヅラ」以外ノ政府直轄地域内ノ國有地ハ申請ニ依リ總督ハ七十五年ヲ超エサル期間之ヲ永租借地トシテ許可スルコトヲ得永租借料ハ「パウ」ニ付一年一盾以下トシ所定ノ登録簿ニ永租借權ノ登記ヲ了シタル後第六年目ヨリ之ヲ納付セシム
- 特別ノ場合殊ニ小面積ノ土地ニ對シテハ永租借料ヲ増額スルコトヲ得
- (二) 前項ニ掲ケタル土地ニシテ内務長官ノ指定シタルモノニ付テハ最高二千五百「ヘクター」以下ノ面積ヲ七十五年ヲ超エサル期間タルコトヲ條件トシ且以下諸項ノ規定ヲ留保シタル上同長官ノ定ムル方法ニ依リ永租借地トシテ公開入札ニ附スルコトヲ得
- (三) 前項ニ定ムル土地ノ公開入札ハ之ヲ公告シテ行フ而シテ其ノ都度一「パウ」ニ對スル一定年額以上ノ永租借料ヲ以テ入札セシムルカ又ハ永租借料ハ一定年額ニヨルコトトシ唯永租借權ノ登記前ニ其ノ都度定ムル一定額以上ノ貢金ヲ國庫ニ納入スヘキ條件ヲ以テ之ヲ行フ
- (四) 内務長官ハ國家ノ利益ヲ保證スル爲メニ必要ナリト認ムル條件ヲ以テ永租借權取得者ニ對シ

- 前項末段ニ定ムル金額ヲ數回ニ互リ納入スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ第一回ノ納入ハ必ス永租借權ノ設定前之ヲ國庫ニ納入スルコトヲ要ス
- (五) 入札ハ六ヶ月以内ノ期間之ヲ公開ス入札締切後一ヶ月以内ニ内務長官ハ理由ヲ記載シタル決定書ヲ以テ其ノ許否ヲ決ス
- (六) 内務長官ノ定ムル期間内ニ左記條件ヲ履行セサル者ニ對シテハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
  - (1) 左記金額ノ國庫納入
    - (イ) 土地ノ境界設定、測量、實測書及地圖作成等ニ要シタル費用トシテ入札公告中ニ記載セラレタル金額
    - (ロ) 本條第三項末段ニ定メタル金額ノ全部又ハ數回分納ヲ許可シタル場合ハ其ノ第一回分
  - (2) 必要ニ應シ或ル申請者ノ爲ニ境界ノ指定及伐木竝ニ其ノ他ニ要シタル費用ニシテ入札公告中ニ右補償トシテ掲ケタル金額ノ納入
- (七) 左記土地ハ之ヲ永租借地トシテ許可スルコトヲ得ス
  - (イ) 第三者カ物權又ハ債權ヲ有スル土地
  - (ロ) 地方ノ制度及慣習ニ依リ神聖ナリト認メラルル土地

六七

- (ハ) 公共ノ市場又ハ牧場トシテ保留セラレタル土地或ハ其ノ他何等公共ノ用途ニ充テレタル土地
- (ニ) 有用材林又ハ其ノ他該土地ノ下付カ一般的又ハ地方的ノ利害關係上好マシカラスト認メラルル土地

第二條

- (一) 永租借權ハ左記ノ者ニ限り之ヲ許可スルコトヲ得
  - 和蘭臣民
  - 和蘭國住民
  - 和蘭領印度住民
  - 和蘭又ハ和蘭領印度ニ設立セラレタル商事會社
- 但シ和蘭領印度ニ住所ヲ有セサル人又ハ會社ハ和蘭領印度ニ其ノ法律上ノ代表者ヲ置クコトヲ要ス
- (二) 永租借權者カ死亡シ其ノ權利取得者カ直ニ右必要條件ヲ具備セサルトキハ本條第一項ノ適用ハ遺產ノ事實發生ノ時ヨリ一年間之ヲ停止ス

第三條

- (一) (一九一八年法令第四七二號ヲ以テ改正) 永租借地ノ出願又ハ許可セラレタル永租借權ノ登記ニ當リ内務長官ニ依リ指定セラレタル當該地方又ハ當該地方ノ一部ニ對シ其ノ提出ノ必要ヲ定メタル場合及出願地ノ面積カ狭小ニシテ内務長官カ其ノ必要ヲ認メタル場合ニ限り實測書ヲ提出スルモノトス
- (二) 實測書ヲ提出セサル場合ニ於テハ總督ハ見積面積ニ對シ一定年額ノ永租借料ヲ決定ス
- (三) 右規定ニ基キ許可セラレタル土地ノ境界カ自然ノ境界ニ依ラサル場合ハ之カ權利取得者ハ其ノ永租借權ノ設定前ニ自ラ且其ノ費用ヲ以テ境界線ノ各角ニ當ル點竝ニ其ノ境界線カ道路、歩道又ハ河川ニ依リテ幅二米以上切斷セラレル場合ハ其ノ各點ニ標柱ヲ設立シテ精密ニ其ノ境界ヲ明示スルコトヲ要ス
- (四) (一九一八年法令第四七二號ヲ以テ改正) 前項ニ掲ケタル標柱ハ軌道用鐵又ハ二重丁字鐵(所謂梁鐵)ニシテ長サ三米突以上幅十二「センチメートル」以上ノモノヲ使用シ且之ニ其ノ下部ヨリ二「デシメーター」ノ點ニ長サ六「デシメーター」以上幅五「センチメートル」以上ノ堅牢ナル二本ノ鐵棒ヲ鋳又ハ螺旋釘ヲ以テ十字型(X)ニ定結スルカ或ハ又長サ三米突以上直徑(外徑)一一・五「センチメートル」以上ノ堅牢ナル鐵管ヲ使用シ且上部ヲ螺旋蓋ヲ以テ密閉シ



下部ハ前記鐵臺ヲ定結スルコトヲ要ス若シ地下ノ状態ニ依リ前記鐵標ヲ以テ永租借地ノ境界ヲ確定スルニ適セサルカ又ハ内務長官ニ於テ斯ノ如キ境界ノ設定カ出願者ニ對シ困難ナリト認めタル場合ハ當該地方長官ハ土地局官吏又ハ政府ノ土地測量官ト協議ノ上之ニ使用スヘキ他ノ何等適當ナル耐久の標柱ヲ決定ス

(五) (一九一八年法令第四七二號ヲ以テ増補)前掲鐵標ハ鉛丹ヲ以テ塗り十字型ヲ下部ニシテ之ヲ其ノ長サノ二分ノ一迄地中ニ埋設シ且之ニ追番號及永租借地名ヲ明記スヘシ

(六) 定メラレタル原簿ニ永租借權ノ登記ヲ爲スニ先チ永租借權取得者ハ自ラ其ノ費用ヲ以テ可成縮尺ニ基キ作成シ且左記事項ヲ記載シタル地圖又ハ圖面ヲ永租借權設定ニ關スル書類ノ原本ニ添付シテ提出スヘシ

(イ) 第三項ニ定メタル標柱設定ノ位置及前項ニ定メタル追番號

(ロ) 永租借地内又ハ其ノ附近ヲ流ルル河川及水路並ニ永租借地ヲ切斷シ又ハ限界スル道路及歩道

(ハ) 永租借權ニ包含セラレサル介在地ノ位置及境界  
其ノ他參考トナルヘキ境界及標柱ニ關スル明細ナル事項

(七) 前項末段ニ定ムル境界ノ記載ニ關シテハ道路及河川ノ岸等自然ノ境界内ニ存在スルト否トニ拘ラス一定地點ヨリ標柱ニ至ル距離ヲ示シ又其ノ永租借地ノ境界線ノ一部カ既ニ存在スル他ノ

永租借地ト共通ナル場合ハ右永租借地ノ境界ニ基キ之ヲ指示スヘシ更ニ又各境界線カ悉ク自然ノ境界ニ依リ得サル場合ハ標柱ヲ連絡スル直線ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

(八) 前項ノ規定ニ拘ラス一九〇五年二月二十四日附(法令第一五三號)及一九〇八年三月十八日附(法令第二六三號)ノ總督令ヲ以テ増補改訂セラレタル一九〇四年八月五日附總督令(法令第三二六號)ノ規定ニ基キ所謂小農又ハ園藝經營ノ爲メニ許可セラレタル永租借地ノ境界確定ニ關シテハ地方長官ノ定ムヘキ條件ヲ具備スル標柱ヲ設定スレハ足ル

(九) 本條ニ定ムル標柱ノ維持ニ關シテハ一九一二年十月三日附總督令(法令第四九七號)第七條ノ規定ヲ適用ス(註)

#### 第四條

實測書ヲ提出セスシテ許可セラレタル永租借地ノ境界ニ關シ紛爭ヲ生シタル場合永租借權者ハ地方長官ニ之カ決定ヲ申請シ又右決定ニ對シ異議ヲ有スル場合ハ總督ニ對シ上訴スルコトヲ得

第五條

七二

(一) 永租借地、右地域内ニ居住スル人及設置セラレタル家屋及建物並ニ右土地ヨリ生スル生産物又ハ右地域内ニ設立セラレタル工場ノ生産物ニ對シテハ現行又ハ將來新設セラルヘキ一般的租稅ヲ課ス

第六條

(二) 不動産稅ヲ課スル地方ニ於テハ永租借權ヲ許可シタル年及其ノ後十年間本稅ヲ免除ス

永租借權者ノ權利及義務ニ關シテハ他ニ何等規定ナキカ又ハ許可書ニ別段ノ規定ナキ限リ蘭領印度民法第二編第八章ノ規定ヲ適用ス

第七條

(一) 永租借權ハ地下ヲ包含セサルヲ以テ永租借權者ハ當該官憲又ハ政府ノ與ヘタル許可或ハ特許ニ依ル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ許容スル義務ヲ有ス

(二) 永租借權者ハ自己ノ使用ニ供スル爲メ永租借地内ニ於ケル鑛業ノ目的物タラサル石、粘土又ハ其ノ他類似ノ物ヲ除去又ハ採掘スルコトヲ得

第八條

永租借權者ハ特ニ別段ノ約束ナキ限リ自ラ植付タルト否トニ拘ラス一切ノ樹木及作物ヲ自由ニ處分スルコトヲ得

第九條

(一) 永租借權者ハ永租借地内ニ水利施設ヲ爲シ及右地域内ニ於ケル井泉、河川又ハ水路ノ水ヲ使用スル場合ハ總督又ハ總督ニ依リ任命セラレタル當該官憲ヨリ特別ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

(二) 右許可ニ對シテハ一般使用ヲ許スヘキ條件ヲ附スルコトヲ得

第十條

(一) 永租借權者カ毎年度經過後十四日以内ニ其ノ永租借料ヲ國庫ニ納入セサルトキハ直ニ其ノ滯納ニ對シ滯納永租借料ノ百分ノ五ノ罰金ニ處ス又右期間經過スルモ尙其ノ納入ヲ怠リタルトキハ滿四ヶ月ニ付右ト同額ノ罰金ヲ課スヘシ但シ右罰金ハ合計滯納租借料ノ百分ノ二十五ヲ超ユルコトヲ得ス

(二) 若シ永租借料ノ納入ニ對シ延期又ハ分割納入ヲ許可シタル場合ニ於テ之ヲ期日迄ニ納入セサルトキハ其ノ滯納罰金ハ右永租借料又ハ其ノ一部ノ國庫納入期日經過後第十五日目ヨリ起算シ

七三

且右滞納額ニ對シ之ヲ計算ス

- 若シ右永租借料ノ納入延期又ハ分割納入カ本條第一項ニ定メタル期日經過後ニ許可セラレタル場合ハ右納入延期又ハ分割納入ノ許可アリタル以前ノ期間ニ對シテハ罰金ヲ課スルコトナシ
- (三) 永租借権者ノ爲スヘキ一切ノ納入ハ他ノ債務ニ優先スルモノトス

#### 第十一條

永租借權讓渡ノ效力ニ對シテハ未タ永租借料納入ノ義務發生セサルカ又ハ讓渡ニ先チ讓渡ヲ爲ス年度ノ永租借料及若シ滞納罰金アルトキハ右罰金ヲ完納スルニ非サル限り内務長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

#### 第十二條

- (一) 永租借權ハ總督又ハ總督ニ依リ權限ヲ與ヘラレタル官憲ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ放棄スルコトヲ得ス
- (二) 永租借權ノ放棄ハ總督ノ定ムル書式ニ基キ公證人ノ面前ニ於テ宣誓スルコトヲ要ス
- (三) 永租借權ノ放棄ハ當該公正證書ノ内容カ法定ノ手續ヲ以テ當該永租借地ノ地方ヲ管轄スル地方長官ニ送達セララル迄ハ何等法律の效力ヲ發生スルコトナシ

- (四) 前項ニ定メタル通知ヲ受ケタル地方長官ハ送達書類ノ謄本ヲ添付シテ遲滞ナク關係書類ノ原本ヲ管理スル官吏ニ通知スルト同時ニ内務長官ニ報告スヘシ

#### 第十三條

- (一) 蘭領印度民法第七三三條ノ規定ニ拘ラス永租借料ヲ三年間納入セサルトキハ總督ハ永租借權ノ沒收ヲ宣言スルコトヲ得
- (二) 右沒收ノ宣言ヲ爲スニ先チ總督又ハ總督ノ名ヲ以テ永租借權者又ハ其ノ權利取得者並ニ抵當權者ニ對シ右永租借權ヲ沒收スヘキ旨ヲ未納額ノ納入督促狀ト共ニ法定ノ手續ヲ以テ送達スヘク右督促狀ニハ滞納永租借料及罰金支拂ニ對シ三ヶ月間ノ支拂期限ヲ附ス

#### 第十四條

- (一) 永租借權ノ許可ニ對シ一定期間内ニ一定地域ヲ開墾スヘキ條件ヲ附シタル場合總督ハ其ノ裁量ニ依リ右條件ヲ履行セサルモノト認メタルトキハ當該永租借地ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトヲ得
- (二) 右最後ノ場合永租借權者ヨリ願出アリタルトキハ之ト協議シタル上總督ノ選定シタル成ルヘク開墾地ニ接近シ且約同一面積ニシテ既栽培地ノ維持又ハ其ノ他永租借權者カ其ノ企業經營上



特ニ必要ナリト認メタル一部ノ土地ニ對シ右沒收決定ノ適用ヲ除外スルコトヲ得

第十五條

(一) 沒收ノ宣言ハ其ノ理由ヲ附記シタル上法定ノ手續ヲ以テ永租借權者又ハ其ノ權利取得者ニ送達ス

(二) 永租借權者又ハ其ノ權利取得者ハ右決定書送達ノ日ヨリ八日以内ニ永租借地ヲ退去シ之ヲ政府ニ引渡ス義務ヲ有ス必要ノ場合ハ永租借權者ノ費用ヲ以テ右義務ノ履行ヲ強制スルコトヲ得

第十六條

第十二條、第十三條及第十五條ニ定ムル送達ハ關係司法規定ニ基キ之ヲ行フ

第十七條

(一) 永租借權者ハ其ノ永租借期間中課稅セラルル永租借料及滯納ニ依ル罰金ノ支拂ニ對シ直接其ノ責ニ任ス永租借權ノ讓渡、沒收及放棄ノ後ト雖モ右責任ヲ免ルルコトヲ得ス

(二) 讓渡ノ場合讓受人ハ讓渡ノ時ニ於ケル未納永租借料及罰金ノ完納ニ對シ直接共同ノ責ニ任ス但シ讓渡人ニ於テ納入シタル金額ニ對シテハ其ノ責ニ任セス

第十八條

既ニ永租借權ヲ許可シタルコトアル土地又ハ全部或ハ一部栽培セラレタル土地ヲ更ニ永租借地トシテ下付スル場合ハ總督ハ第一條(第一項)及第五條(第二項)ニ定メタル永租借料ノ納入開始期及不動産稅ノ支拂免除ニ關スル規定ヲ除外スルコトヲ得

第十九條

永租借權ノ讓渡並企業ノ經營ヲ其ノ代理人ニ委任スル場合ハ其ノ都度一ヶ月以内ニ之ヲ永租借地ノ地方ヲ管理スル當該地方長官ニ通知スルコトヲ要ス若シ之ヲ怠リタルトキハ百盾以下ノ罰金ニ處ス

第二十條

本令ハ之ヲ「外領ニ於ケル永租借條例」ト稱ス

(註) 一九一二年十月三日附總督令第七條

實測書作成ノ爲測量シタル土地ノ境界確保ニ關スル規定

(一) 或ル土地ニ對スル權利者ハ當該土地ノ境界確保ノ爲メ設置シタル標柱ヲ常ニ地方長官ニ於テ是認スヘキ適當ナル状態ニ維持スルノ義務ヲ有ス

- (二) 右義務ノ不履行ニ對シテハ標柱一本ニ付二十五盾ノ罰金ニ處ス
- (三) 若シ之ヲ怠リタルトキハ地方長官ハ右義務不履行者ノ費用ヲ以テ之ヲ維持ス

二、瓜哇及「マヅラ」以外ノ諸地方ノ土侯自治領ニ於ケル土

地ノ永租借條例 (一九一九年法令第六一號)

第一章 土地ノ永租借許可ニ關スル自治領政府ノ權限

並ニ之ニ對スル行政監督

第一條 (永租借權許可ニ對スル地方長官ノ同意)

瓜哇及「マヅラ」以外ノ諸地方ニ於ケル自治領政府カ土地ノ永租借權ヲ許可スル場合ハ當該地方長官ノ同意ヲ得サルヘカラス右許可ニ對シテハ以下各條ノ規定ヲ適用ス

第二條 (地方長官カ同意ヲ與ヘサル場合)

- (一) 地方長官ハ其ノ許可カ本令ノ規定、自治領ノ利益、土人或ハ其ノ他一般ノ利益ニ抵觸シ又ハ第三者ノ權利ヲ侵害スルモノナルトキハ第一條ニ掲ケタル許可ニ對シ同意ヲ與ヘス
- (二) 地方長官ハ其ノ可否ノ決定ニ際シ常ニ瓜哇及「マヅラ」以外ノ政府直轄地ニ於ケル一般的地方針並ニ本件ニ關シ總督又ハ內務長官ノ發令シタル規定及命令等ヲ考量スヘシ

第三條 (永租借權ノ期間及永租借地ノ面積)

自治領内ニ於ケル土地ノ永租借ハ七十五年ヲ超エサル期間以内之ヲ許可ス各出願ハ面積三千五百「ヘクタール」以上ノ土地ヲ申請スルコトヲ得ス

第二章 永租借地ノ目的及永租借權下付ニ對スル條件

第四條 (永租借權ノ目的)

- (一) 永租借權者ハ許可書ニ特別ノ使途ヲ明記セサル限り永租借地ヲ農業及牧畜ノ爲メニノミ使用スルモノトス
- (二) 永租借權者ハ又特別ノ諒解アルカ或ハ更ニ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ永租借地ノ上ニ他ノ建物及設備ヲ爲スコト及農業又ハ牧畜ノ經營或ハ其ノ生産品ノ加工ノ必要ナラサル他ノ工事ヲ施スコトヲ得ス
- (三) 永租借權者ハ更ニ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ永租借地ニ屬スル土地ノ一部ヲ更ニ土人ニ貸付クルコトヲ得ス但シ左ニ掲ケル無料提供ハ之ヲ許可ス
  - (イ) 農園ニ於ケル勞働者ノ必要ニ應シ移民部落ノ設置及其ノ擴張ノ爲メニスルトキ
  - (ロ) 農園内ニ居住スル商人、蔬菜栽培者、職人等ノ爲メニスルトキ

(ハ) 農園使用人ノ爲メニスルトキ

第五條 (井泉、水路等ノ維持ノ爲メニ必要ナル土地ノ提供)

永租借権者ハ永租借地ノ上ニ存在スル井泉、河川、水路及其ノ他水利事業ヲ維持保護スル爲メ其ノ兩側ニ於テ地方長官ノ指定スル面積ノ土地ヲ無償ニテ提供スヘシ

第三章 永租借権者ニ對ス條件

第六條 (永租借権者ノ資格)

(一) 左ニ掲クル者ニ限り永租借ヲ許可スルコトヲ得

和蘭國臣民

和蘭國住民

蘭領印度住民

和蘭又ハ蘭領印度ニ設立セラレタル商事會社

右會社中株式會社ニ在リテハ唯一ノ取締役又ハ監査役、若シニ名アルトキハ二名共、又取締役多數アルトキハ其ノ過半数、尙監査役多數アルトキ亦其ノ過半数及合名會社及合資會社ニ在リテハ其ノ唯一ノ業務執行社員、業務執行社員二名ナルトキハ二名共、又多數アルトキハ其ノ

過半数カ和蘭國臣民ナルカ又ハ蘭領印度住民タルコトヲ要ス

但シ蘭領印度ニ住所ヲ有セサル人又ハ會社ハ蘭領印度ニ其ノ法律上ノ代表者ヲ有スルコトヲ要ス

(二) 永租借権者死亡シ其ノ權利繼承者カ直ニ右必要條件ヲ具備セサル場合本條第一項ニ定メタル規定ハ遺産ノ事實發生ノ時ヨリ一年間其ノ適用ヲ停止ス

(三) 第一項ニ定メタル必要條件ハ本令實施前既ニ農業租借権ヲ有スル人又ハ會社ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ右ハ前顯租借権ヲ本令ノ規定ニ基キ永租借権ニ依ル企業ニ變更ノ場合及將來右企業ニ對シ許可スヘキ土地ノ擴張ノ場合ノミニ限り適用スルモノトス

第四章 永租借権獲得ノ方法

第七條 (永租借出願書ノ提出)

(一) 土地ノ永租借出願書ハ地方長官ヲ經テ自治領政府ニ提出スヘシ

(二) (一九二二年法令第四五二號ヲ以テ改正)

右出願書ニハ正當ナル權限ヲ有スル土地測量官ノ作成シタル實測書又ハ政府ノ土地測量官ニ任命セララルヘキ資格ヲ有シ且宣誓ヲ爲シタル者ノ作成ニ係ルモノ又ハ土地局長カ検査シ又ハ認證

シタル地圖及境界明細書或ハ出願地ノ位置、面積及境界ヲ記入シタル地圖又ハ圖面ヲ添付スル  
コトヲ要ス

八二

第八條 (實測書並ニ地圖及境界明細書ノ提出ヲ要スル場合)

(一九二一年法令第四五三號ヲ以テ改正)

- (一) 永租借權ノ下付出願ノ場合タルト永租借權登記ノ場合タルトヲ問ハス内務長官ノ指定シタル  
地方或ハ其ノ地方ノ一部ニ對シ其ノ提出ノ必要ヲ認メタル場合及出願地ノ面積狭小ニシテ同長  
官ニ於テ之カ提出ヲ必要ナリト認メタル場合ニハ實測書ヲ提出スルコトヲ要ス
- (二) 内務長官ノ指定シタル地方ニ於テ出願ノ場合ハ第七條第二項ニ定メタル地圖及境界明細書ヲ  
提出スルコトヲ要ス

第九條 (實測書又ハ地圖及境界明細書ヲ提出セサル場合)

- (一) (一九二一年法令第四五三號ニ依リ改正) 出願者カ第七條第二項ニ定メタル實測書又ハ地圖及  
境界明細書ヲ添付セサル場合ハ若シ其ノ出願地カ測地局ノ發行シタル明細ナル地圖ヲ入手シ得  
ヘキ地方内ニ存在スルトキハ右地圖又ハ其ノ精密ナル寫圖ノ上ニ出願地ノ境界ヲ明記スヘシ但  
シ當該地域カ狭小ナル爲メ右地圖ノ縮尺ヲ以テハ明細ナル境界ヲ記載スルコト不可能ナル場合

ハ右地圖ヲ精密ニ擴大シ且必要ニ應シ右原圖ニ記載セラレサル點ヲ補足シタル上之ヲ記載シ且  
次項ニ定ムル地域ノ特徴ニ關スル明細ヲ記入スヘシ

- (二) 出願地地方ノ地圖皆無ナルカ又ハ信賴スヘキ地圖ナキ場合ハ出願者ハ成ルヘク縮尺ニ基キ圖  
面ヲ作成シ之ニ出願地ノ境界、出願地内ヲ貫通スル又ハ其ノ近接地ニ於ケル道路、步道、河川  
並ニ出願地内又ハ近接地ニ於ケル村落又ハ人家及土人ノ耕作地ヲ記入シタル上之ヲ提出スヘシ
- (三) 地圖又ハ圖面ニハ出願地ノ境界ヲ完全ニ記載シ又右境界カ自然ノ境界ニ依ルヲ得スシテ推定  
線ヲ以テ之ヲ示シタル場合ハ右線ノ長サ及方位又ハ方角或ハ近接地ニ於ケル一定地點ノ角度又  
ハ分界點ノ位置或ハ土地ノ特徴及自然ノ分界等ヲ記入スルコトヲ要ス

第十條 (委員ノ調査)

出願ヲ却下スヘキ明ナル事項ヲ發見セサル限リ當該地方長官ハ自治領政府ト協議ノ上委員ヲ任命  
シ可成速ニ出願地ノ調査ヲ命ス

第十一條 (伐木)

- (一) 出願者ハ調査委員ヨリ書面ヲ以テ指定シタル期間以内ニ調査ヲ容易ナラシムル爲メニ步道及

八三

若シ其ノ境界カ明瞭ニ見定メ得ヘキ何等永久の標識等自然ノ境界ナキ場合ハ其ノ境界ヲ伐木シ且調査ニ際シテハ自ラ又ハ書面ヲ以テ委任シタル其ノ代理人ヲシテ出願地ノ境界ヲ指示セシムヘシ

(二) 若シ出願者カ前項ニ定メタル準備の措置ヲ爲ササルカ又ハ其ノ準備カ不完全ナル場合ハ地方長官ハ右出願ノ却下ヲ宣言シ且其ノ旨出願者ニ通知ス

#### 第十二條 (調査委員ノ公告)

調査委員ハ實地調査ニ先チ又ハ調査ト同時ニ右出願ニ關シ出願地ノ詳細ナル事項ヲ明示シテ之ヲ近接村落及當該地ニ關係ヲ有スル鑛業權所有者又ハ其ノ代表者ニ對シ公告ス若シ村落ノ當局者又ハ住民並ニ前記權利所有者、代表者又ハ管理人ニシテ異議ヲ有スルモノハ右公告後少クトモ一ヶ月以内ニ調査委員又ハ自治領政府或ハ地方長官ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

#### 第十三條 (調査委員ノ調査報告書)

調査委員ハ實地調査ノ結果ニ關シ調査報告書ヲ作成シ之ヲ自治領政府及地方官ヲ經テ地方長官ニ提出スヘシ右調査報告書ニハ左記書類ヲ添付スヘシ

(イ) 出願者ノ指示シタル地域ニ關シ自ラ作成シタル圖面

(ロ) 當該地方ノ地圖ニ出願地域ヲ記入シ且其ノ附近ニ於ケル永租借出願地及既ニ農業租借地及永租借地トシテ許可セラレタル土地並ニ其ノ見積面積及所定ノ租稅及永租借料ヲ記入シタルモノ

(ハ) 出願地域内ニ介在セル第三者ノ所有地アル場合ハ其ノ狀態及見積面積並ニ其ノ所有者カ右所有地及其ノ地域内ニ於ケル果樹ヲ讓渡スル意向ノ有無並ニ讓渡ノ場合ハ其ノ賠償額ヲ示シタル書類

(ニ) 出願地附近ニ於ケル將來土人農業ノ擴張發展ニ對スル餘地如何並ニ水利、氣候又ハ林業等ニ對スル理由ニ依リ之カ開拓ニ對シ除外スヘキ程度如何等ニ關スル明細書

#### 第十四條 (委員ノ再調査)

(一) 自治領政府ニ於テ前條ニ定メタル書類ヲ接受シ且地方長官ニ於テモ當該永租借地ノ許可ニ對シ何等異議ナキコトヲ確メタル上之ヲ許可スヘキ意向ヲ決定シタルトキハ前條記載ノ委員ハ利害關係者ノ申請ニ基キ必要ニ應シ再調査ヲ爲シタル上規定ノ境界決定、賠償支拂及其ノ他ニ關スル條件ヲ適宜決定ス

(二) 調査委員ハ右再調査ノ結果意見書二通ヲ作成シ一通ヲ自治領政府ニ一通ヲ第一條及第二條ニ



定メタル同意ノ有無決定ノ參考ニ供スル爲メ地方官ヲ經テ地方長官ニ提出ス

- (三) 前顯再調査ノ結果報告ヲ俟チ且租借權ヲ當該登録簿ニ登録前自治領政府ハ地方長官ト協議ノ上第一項ニ掲ケタル條件並ニ更ニ條件ヲ附加スルコトアルヘキ條件ヲ以テ出願者ニ對シ地域ヲ指定シ其ノ開拓ニ對スル假許可書ヲ交付スルコトヲ得但シ被許可者ニ何等過失アリタルトキハ直ニ右假許可ヲ取消スコトヲ得

#### 第十五條 (調査費負擔)

第十條及第十四條ニ掲ケタル調査費ハ地方長官ノ決定ニ依リ全部又ハ一部ヲ出願者ノ負擔トスルコトヲ得右費用ハ一時ニ之ヲ納付シ又ハ後日清算スルコトトシテ同長官ノ定ムル一定金額ヲ納付セシムルコトヲ得

#### 第十六條 (永租借地ノ境界設定)

實測書ヲ提出セスシテ許可セラレタル永租借地ニシテ且其ノ境界カ自然ノ境界ニ依ラサルモノニ在リテハ出願者ハ自ラ其ノ費用ヲ以テ租借權ノ確定前其ノ境界線ノ各角ニ當ル地點及其ノ境界線カ道路、歩道又ハ河川ノ爲ニ幅二米突以上切斷セラレタル各地點ニ標識ヲ設置シテ精密ニ境界ヲ確定スルコトヲ要ス

#### 第十七條 (同上)

- (一) 前條ニ定ムル標柱ハ軌道鐵又ハ二重丁字鐵(所謂梁鐵)ニシテ長サ三米突以上幅十二「センチメートル」以上ノモノヲ使用シ且其ノ下部ヨリ二「デシメートル」ノ點ニ長サ六「デシメートル」以上幅五「センチメートル」厚サ一・五「センチメートル」以上ノ堅牢ナル二本ノ鐵棒ヲ鉸又ハ螺旋釘ヲ以テ十字型(X)ニ定結スルカ又ハ長サ三米突以上直徑(外徑)一一・五「センチメートル」以上ノ堅牢ナル鐵管ヲ使用シ其ノ上部ヲ螺旋蓋ヲ以テ密閉シ下部ニ前記鐵柱ト同様ノ鐵臺ヲ定結シタルモノヲ使用スルコトヲ要ス
- (二) 前掲標柱ハ鉛丹ヲ以テ塗布シ十字型ノ臺ヲ下部ニシテ其ノ二分ノ一ヲ地中ニ埋沒シ次項ニ述フル標柱ト同様各標柱ニ追番號及永租借地名ヲ明記スヘシ
- (三) 若シ當該土地ノ地下カ前記標柱ヲ設定シテ境界ヲ確定スルニ適セサルカ又ハ出願者カ斯ノ如キ境界設定ヲナスコトニ支障アルコトヲ認メタル場合ハ地方長官ハ當該土地局官吏又ハ政府ノ土地測量技師ト協議ノ上之ニ使用スヘキ適當ナル耐久性ヲ有スル標柱ヲ決定ス

#### 第十八條 (地圖又ハ圖面)

- (一) 永租借權取得者ハ所定ノ登録簿ニ永租借權ヲ登録スルニ先チ自ラ且其ノ費用ヲ以テ左記事項

ヲ記載シタル地圖又ハ圖面ヲ作成シ之ヲ永租借權許可書ノ原本ニ添付シテ提出スルコトヲ要ス

(イ) 標柱設置ノ位置並ニ其ノ追番號

(ロ) 永租借地内又ハ其ノ境界ノ附近ヲ流ルル河川及水路並ニ永租借地ヲ貫通シ又ハ限界スル道路及歩道

(ハ) 永租借權ニ包含セラレサル中間介在地ノ位置及其ノ境界  
尙其ノ他境界及標柱ニ關スル明細ナル參考事項

(二) 前項末段ニ掲ケタル境界ノ記載ニ關シテハ道路及河川ノ岸等自然ノ境界内ニ存在スルト否トニ拘ラス一定地點ヨリ標柱ニ至ル距離ヲ示シ又其ノ境界ノ一部カ他ノ既存永租借地ノ境界ト合致スル場合ニ於テハ後者ノ境界ヲ指示スヘシ尙各境界カ悉ク自然ノ境界ニ依ルコトヲ得サル場合ハ標柱ヲ連絡スル直線ヲ以テ之ヲ示スヘシ

#### 第五章 永租借權者ノ權利及義務

#### 第十九條 (民法ノ適用)

永租借權者ノ權利及義務ハ別段何等規定ナキカ又ハ許可書ニ別段ノ規定ナキ限り蘭領印度民法第二編第八章ノ規定ヲ適用ス

#### 第二十條 (永租借權者ノ住所)

永租借權ニ關スル限り永租借權者ノ一定且一般的住所ハ當該永租借地ノ全部又ハ其ノ大部分ノ所在スル當該地方長官ノ事務所内ニ之ヲ選ヒタルモノト看做ス右住所ノ選定ハ永租借權ノ讓渡、沒收ノ宣告及放棄ノ後ニ於テモ其ノ效力ヲ持續ス

#### 第二十一條 (標柱ノ維持)

永租借權者ハ第十六條及第十七條ニ定メタル標柱ヲ地方長官ニ於テ適當ト認ムル状態ニ維持スル義務ヲ有ス若シ右維持ヲ怠リタルトキハ地方長官ハ永租借權者ノ費用ヲ以テ之ヲ適當ニ維持セシムルコトヲ得

#### 第二十二條 (境界ニ關スル紛争)

實測書ヲ提出セスシテ許可セラレタル永租借地ノ境界ニ關シ紛争ヲ生シタル場合ハ永租借權者ハ地方長官カ査定委員會ニ諮リ且自治領政府ト協議ノ上爲シタル決定ニ服従スヘシ右委員會ハ三名ノ委員ヨリ成リ内二名ハ地方長官ノ定メタル期間内ニ利害關係者之ヲ選任シ他ノ一名ハ地方長官之ヲ指名ス若シ利害關係者ナキトキハ他ノ委員モ亦地方長官之ヲ指名ス

第二十三條(聖地)

永租借權者ハ永租借地内ニ於ケル墓地及其ノ他土人間ニ於テ神聖ナリト認メラルル地ヲ最モ尊重スヘシ但シ永租借權者ノ申請ニ基キ地方長官カ自治領政府ト協議ノ上調査ノ結果土人ニ於テ右土地ノ使用ニ對シ何等異議ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條(鑛物ノ試掘及採掘)

- (一) 永租借權ハ地下ヲ包含セサルヲ以テ永租借權者ハ當該官憲又ハ政府ノ下付又ハ認可シタル許可及特許ニ依ル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ許容スヘキ義務ヲ有ス
- (二) 永租借權者ハ自己ノ用途ニ供スル爲メ永租借地内ニ於ケル鑛業ノ目的物タラサル石、粘土又ハ其ノ他ノ土石ヲ除去及採掘スルコトヲ得

第二十五條(樹木及作物ノ處分)

- 永租借權者ハ特ニ別段ノ約束ナキ限り左記物件ヲ自由ニ處分スルコトヲ得
- (イ) 其ノ自ラ植付タルト否トニ拘ラス永租借地ニ於テ地方長官カ既ニ開墾セラレタルモノト認ムル地域内ニ在ル樹木及作物
  - (ロ) 永租借地中未開墾地域内ニ於ケル樹木及林野ノ產物ニ關シテハ地方長官ノ許可シタルモノ

ハ之ヲ處分スルコトヲ得ヘシ但シ樹木及物產ノ處分權カ自治領又ハ政府ノ所有ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條(水利ニ關スル權利及其ノ他水ノ供給)

(一九二七年法令第一九一號ヲ以テ改正)

- (一) 永租借權者ハ永租借地内ニ於テ水利作業ヲ新設シ又ハ水路ノ水ヲ使用スル場合ハ特別ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス右許可ニハ一般ノ使用ニ對スル條件ヲ附スルコトヲ得水力ノ使用ニ關シテハ總能力百馬力以上ノモノ及百馬力以下ノモノニアリテハ永租借權者ノ專用ニアラサルモノニ對シテハ總督之ヲ許可シ其ノ他ノ場合ニアリテハ自治領政府ト協議ノ上地方長官之ヲ許可ス
- (二) 永租借權者ハ租借當時ヨリ存在スルト又ハ其ノ租借後設置シタルト問ハス許可ナクシテ永租借地域内ニ於ケル水路及水利施設並ニ井泉、河川及其ノ他ノ水路ヲ變更シ或ハ何等カノ方法ヲ以テ之等水路ヲ制限シ又ハ一定ノ水流ヲ障礙スルコトヲ得ス
- (三) 永租借權者カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ地方長官ハ永租借權者ノ費用ヲ以テ之カ復舊ヲ命スルコトヲ得

## 第二十七條（水源地ノ周圍ニ於ケル樹木ノ伐採）

- (一) 永租借権者ハ地方長官ノ許可ナクシテ乾燥季ニ於テ常時水ヲ湛ヘタル井泉ノ周圍百米突及永租借地域内ニ於ケル海拔二百米突以上ノ地域並ニ乾燥季ニ於テ常時水ヲ湛ヘタル河川（海岸ノ水流ヲ除ク）ノ兩側二十五米突（普通ノ岸ヨリ計算ス）以内ニ於ケル樹木ヲ伐採スルコトヲ得ス
- (二) 前項ノ規定ニ違反シ且若シ地方長官又ハ自治領政府ニ於テ其ノ必要ヲ認メタルトキハ永租借権者ハ伐木シタル場所ニ再植林ヲ爲ス義務ヲ有ス若シ之ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ永租借権者ノ負擔ヲ以テ之ヲ爲サシムヘシ

## 第二十八條（建物、道路及其ノ他ノ施設ノ爲メニスル土地ノ提供）

永租借権者ハ左記ニ關シ地方長官ノ通知アリタルトキハ直ニ土地ヲ提供スヘシ

- (一) 地方長官ニ於テ官廳ノ設置及一般ノ利益又ハ公共事業ノ爲メニスル建物及施設ニ必要ナリト認メ且選定シタル必要ナル面積ノ土地
- (二) 地方長官カ左記事業ニ必要ノ爲メ方向、幅員、面積、境界及其ノ他ニ關シ指定シタル土地
- (イ) 鐵道、電車及其ノ他道路、歩道並ニ水道、下水道、高地ヨリノ排水溝、堤防及其ノ他水利施設ノ新設、擴張又ハ位置ノ變更

## (ロ) 當該官憲ノ測量又ハ觀測ノ爲メニ必要ナル三角柱又ハ其ノ他標識ノ設置

## 第二十九條（電信及其ノ他電線ノ架設及使用ニ對スル服從義務）

永租借権者ハ其ノ永租借地内ニ於ケル地上又ハ地下ノ電信及其ノ他電線ノ架設及使用ヲ許容シ且地方長官ヨリ命令ヲ受ケタルトキハ直ニ同長官ノ指圖ニ從ヒ之等電線ノ架設ニ必要ナル中繼所又ハ建物ニ要スル土地ヲ提供スルノ義務ヲ有ス

## 第三十條（前二條ノ場合ニ於ケル賠償請求權）

- (一) 第二十八條及第二十九條ノ場合ニ於テハ權利所有者ハ第四十三條ニ定ムル永租借料ノ減額ノ外唯當該提供地上ニ於ケル建物、施設、植物等ニ對シ蒙リタル損害ニ對シテノミ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
- (二) 前項ニ定ムル損害賠償ハ利害關係者間ニ於ケル合意ヲ以テ之ヲ定ム若シ適當ナル協定成立セサルトキハ地方長官ヨリ二名、利害關係者ヨリ一名ノ委員ヲ指名シ右委員ト協議ノ上地方長官之ヲ決定ス

## 第三十一條（永租借地ヘノ出入）

永租借権者ハ地方長官ノ定ムル方法ヲ以テ永租借地域内ニ介在スル土人ノ所有地及村落並ニ墓地

及其ノ他聖地ニ出入シ又ハ其ノ他第三者カ有スル權利ヲ行使スル爲メ必要上其ノ永租借地域内ノ一部ニ入場及通行スルコトヲ許可スヘキ義務ヲ有ス

第三十二條 (公共ノ道路維持費ノ負擔)

(一) 永租借権者ハ地方長官ニ依リ主要交通道路トシテ指定セラレタルモノヲ除キ地方長官カ永租借権者ノ農園ニ於テ常時使用スルモノト認メテ課スル公共ノ道路及歩道並ニ橋梁及其ノ他工事ノ維持費トシテ一定ノ金額ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

(二) 前項ノ規定ヲ遵守セサルトキハ地方長官ハ永租借権者ノ負擔ヲ以テ一部右維持ヲ命スルコトヲ得

第三十三條 (公共ノ道路ノ尊重)

(一) 永租借権者ハ永租借地内ニ存在シ且地方長官ニ於テ一般交通ノ爲メニ必要ナリト認メタル道路及歩道ヲ地方長官ノ許可ナクシテ變更スルコトヲ得ス

(二) 永租借権者ハ地方長官ノ許可ヲ得テ右道路及歩道ヲ車輛又ハ其ノ他ノ交通ニ對シ禁止スルニ非サレハ常ニ之ヲ公開スルコトヲ要ス

第三十四條 (水路ノ清潔維持)

永租借権者ハ永租借地内ニ於ケル河川及其ノ他水路中ニ木片等落下シ水流ヲ妨ケ爲メニ其ノ上流又ハ下流ノ住民ニ對シ損害ヲ與フルカ如キコトアルトキハ直ニ之ヲ除去スルコトヲ要ス若シ之ヲ怠リタルトキハ地方長官ハ右永租借権者ノ負擔ヲ以テ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十五條 (權利ノ讓渡)

永租借権ノ有效ナル讓渡ニ對シテハ地方長官及自治領政府ノ許可ヲ要ス但シ未タ永租借料ノ納入ノ義務發生セサルカ又ハ讓渡ニ先チ讓渡ノ行ハルル年ノ終迄ノ永租借料及滯納ニ依ル罰金アルモ之ヲ國庫ニ完納シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 (地方長官ニ對スル通知)

永租借権ノ讓渡並ニ農園ノ支配ヲ代理人ニ委任シタル場合ハ其ノ都度一ヶ月以内ニ之ヲ永租借地ノ存在スル當該地方長官ニ通知スルコトヲ要ス

第三十七條 (支配人等ノ就職ト地方長官ノ許可)

(一) 支配人及監督又ハ助手トシテ永租借地ニ專屬従業スル者ハ地方長官ノ發給スル許可書ヲ受クルコトヲ要ス

(二) 若シ右許可ヲ拒ミタルトキ、取消シタルトキ並ニ地方長官ノ定ムル一定ノ期限内ニ其ノ申請

ヲ爲ササルトキハ右農園ヨリ當該支配人、監督又ハ助手ノ退去ヲ命スルコトヲ得ヘク又必要ニ應シ之カ強制處分ヲ爲スコトヲ得

- (三) 前項ニ定ムル處分ニ對シ地方長官ハ其ノ理由ヲ記載シタル決定書ヲ發ス右決定ニ對シ利害關係者ハ右決定書ノ日付ヨリ三ヶ月以内ニ總督ニ對シ上訴スルコトヲ得但シ右上訴ニ依リテ前記處分ノ執行ヲ中止スルコトナシ

第三十八條 (農園ニ關スル報告提出ノ義務)

地方長官ヨリ命令アリタルトキハ永租借權者、其ノ代表者、支配人及監督者又ハ助手ハ右長官ノ定メタル期間内ニ當該企業ノ財政狀態ニ關セサル限り右企業ニ關スル適當ナル報告及説明ヲ提出スルノ義務ヲ有シ又必要ノ場合ハ右報告及説明ニ關シ宣誓ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條 (租稅)

- (一) 永租借地、永租借地内ニ居住スル人、家屋、建物及右土地ヨリ生スル產物又ハ之ニ設置シタル工場ノ生産物ニ對シ現行又ハ將來新設セラルヘキ一般租稅ヲ課ス
- (二) 不動産稅ヲ課セラルル地方ニ於テハ特別ノ理由ヲ以テ總督ニ依リ其ノ必要ナシト認めラルルニ非サレハ永租借權ヲ許可セラレタル年及其ノ後十年間本稅ノ徵收ヲ免除ス

第四十條 (永租借料)

- (一) 永租借權者ハ永租借地ニ對シ「ヘクター」ニ付一年一盾以上ノ永租借料ヲ當該自治政府ニ納入スルコトヲ要ス但シ内務長官ニ於テ特別ノ事情ヲ認メタル場合又ハ一定地域ニ對シ右永租借料ヲ減額スルコトヲ得ヘシ
- (二) 實測書ヲ提出セサル永租借地ニ對シテハ自治領政府ハ豫メ地方長官ノ承認ヲ經テ見積面積ニ付一定年額ノ永租借料ヲ決定ス

第四十一條 (永租借料納入義務ノ開始)

- (一) 永租借料納入ノ義務ハ當該永租借權ヲ所定ノ登録簿ニ登録ヲ爲シタル次年ヨリ始マル但シ特別ノ事情ニ依リ其ノ必要ナシト認めタル場合ハ自治領政府ハ地方長官ト協議ノ上第一年ニ所定永租借料ノ五分ノ一、第二年ニ其ノ五分ノ二、第三年ニ其ノ五分ノ三、第四年ニ其ノ五分ノ四トシ第五年以降其ノ全額ノ課稅ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 (永租借料ニ對スル責任)

- (一) 永租借權者ハ其ノ永租借期間中永租借料及滯納ニ依ル罰金ノ支拂ニ對シ自ラ責任ヲ負フ右責

- 任ハ永租借權ノ讓渡、沒收又ハ放棄ノ後ト雖モ繼續ス
- (二) 永租借權ノ讓渡ノ場合右讓受人ハ讓渡ノ時ニ至ル迄ノ未納永租借料及罰金ノ完納ニ對シ共ニ其ノ責ニ任ス但シ舊永租借權者カ之ヲ納入シタル場合ハ新永租借權者ハ右支拂額ノ限度ニ於テ其ノ責ヲ免ル

第四十三條 (永租借料ノ減額)

第二十八條及第二十九條ニ定ムル土地ノ提供及第二十四條第一項ニ定ムル鑛業的試驗及採掘ノ爲メニ提供スル土地ニ對シテハ右使用期間ニ應シ一時的又ハ永久的ニ地方長官ノ見積ニ依ル當該土地ノ面積ニ比例シ一定ノ永租借料ヲ減額ス右減額ハ土地ノ提供ヲ爲シタル次年ニ始マリ右土地ヲ再ヒ永租借權者ニ還付シタル年ヲ以テ終ル

第四十四條 (永租借料ノ滯納)

- (一) 永租借料ヲ當該曆年度終了後十四日以内ニ自治領ノ國庫ニ納入セサルトキハ直ニ永租借權者ニ對シ滯納永租借料ノ百分ノ五ニ相當スル罰金ニ處ス又更ニ之ヲ滯納スルトキハ四ヶ月毎ニ右ト同額ノ罰金ヲ課ス但シ右罰金ハ合計永租借料ノ百分ノ二十五以上ニ達スルコトヲ得ス
- (二) 自治領政府カ地方長官ノ同意ヲ得テ永租借料ノ納入延期又ハ分割納入ヲ許可シタル場合ニ於

ケル滯納罰金ハ右永租借料又ハ其ノ一部ヲ自治領ノ國庫納入期經過後第十五日ヨリ之ヲ課シ且納入スヘキ滯納額ニ付之ヲ計算ス

- (三) 若シ右納入延期又ハ分割納入カ第一項ニ定メタル期間經過後ニ許可セラレタル場合ハ右許可ニ至ル迄ノ期間ニ對シテハ罰金ヲ科スルコトナシ

第四十五條 (永租借料ノ納入ハ他ノ債務ニ對シ優先ス)

永租借權者カ納入スヘキ永租借料ハ常ニ他ノ債務ニ對シ優先ス

第六章 永租借權ノ消滅方法

第四十六條 (棄權)

- (一) 永租借權ハ自治領政府カ地方長官ト協議ノ上許可スルニ非サレハ之ヲ棄權スルコトヲ得ス
- (二) 永租借權ノ棄權ハ地方長官ノ定ムル書式ニ基キ公證人立會ノ上宣言ヲ以テ之ヲ行フ
- (三) 永租借權ノ棄權ハ當該公正證書ノ内容ヲ法律上ノ手續ヲ經テ當該永租借地地方長官ニ送達セララル迄ハ何等法律的效力ヲ發生スルコトナシ
- (四) 前項ノ規定ニ基ク送達ヲ受ケタル地方長官ハ送達書類ノ寫ヲ添付シテ遲滯ナク之ヲ法律書

類ノ原本ヲ保管スル關係官吏ニ通知スルト同時ニ之ヲ當該自治領政府並ニ内務長官ニ報告スヘシ

100

#### 第四十七條 (使途違反ニ依ル沒收ノ宣告)

第四條第一項又ハ許可書ニ定メタル使途ノ違反並ニ同條第二項及第三項ノ規定違反ノ場合及其ノ他地方長官ノ專斷決定ニ基キ自治領政府ハ右長官ノ承認ヲ經テ永租借權ノ全部又ハ其ノ一部ニ對シ沒收ノ宣告ヲ爲スコトヲ得右決定ニ對シ利害關係者ハ三ヶ月以内ニ其ノ理由ヲ附シ地方長官ヲ經由シテ總督ニ抗辯書ヲ提出スルコトヲ得

#### 第四十八條 (永租借料ノ滯納ニ依ル沒收ノ宣告)

(一) 永租借料ヲ三年間滯納シタル場合ハ蘭領印度民法第七三三條ノ規定ニ拘ラス自治領政府ハ地方長官ノ承認ヲ經テ永租借權ノ沒收ヲ宣告スルコトヲ得

(二) 右沒收ノ宣告ハ先ツ永租借權者又ハ其ノ權利取得者或ハ抵當權所有者ニ對シ右宣告ノ意思ト共ニ少クトモ三ヶ月ノ期限ヲ附シテ滯納永租借料及罰金並ニ法律的手續費用ヲ支拂フヘキ旨ノ督促狀ヲ法律的手續ヲ以テ送達シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

#### 第四十九條 (開拓條件ノ不履行ニ依ル沒收ノ宣告)

(一) 永租借權カ一定期間内ニ一定部分ノ土地ヲ開拓スヘキ條件ヲ以テ許可セラレタル場合而シテ地方長官ノ意見ニ於テ右條件ヲ充タササルモノト認メタルトキハ自治領政府ハ同長官ノ同意ヲ得タル上當該永租借權ノ全部又ハ一部ニ對シ沒收ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

(二) 右最後ノ場合ニ於テ永租借權者ノ願ニ依リ且其ノ意見ヲ聽取シタル上自治領政府カ地方長官ト協議シテ成ルヘク既ニ栽培セラレタル土地ニ近接シ且其ノ合計ノ面積カ既成栽培物ノ維持又ハ當該企業ノ經營上特ニ必要ナリト認メラルル必要部分ノ土地ニ對シ前記處分ノ適用ヲ除外スルコトヲ得

#### 第五十條 (沒收宣告ノ方法)

永租借權沒收ノ宣告ハ永租借權者又ハ其ノ權利取得者ニ對シ理由ヲ附シタル自治領政府ノ決定ヲ法律的手續ヲ以テ送達ス

#### 第五十一條 (沒收宣告ノ效果)

(一) 永租借權者又ハ其ノ權利取得者ハ沒收宣告ノ決定書送達ノ日ヨリ八日以内ニ永租借地ヲ退去シ之ヲ自治領政府ニ引渡スコトヲ要ス若シ之ヲ肯セサルトキハ其ノ費用ヲ以テ之ヲ強制執行スルコトヲ得

101



(二) 沒收宣告ノ決定書送達ヨリ一ヶ月ノ後永租借地ニ存在スル舊永租借權者ノ建物、設備又ハ栽培物ハ之ヲ棄權シタルモノト看做ス

第五十二條 (法律的送達)

第四十六條、第四十八條及第五十條ニ定メタル送達ハ司法事務ニ關スル法令ニ定ムル規定ニ基キ之ヲ行フ

第五十三條 (罰則)

(一)

(1) 左ノ一ニ該當スル者ハ百盾以下ノ罰金ニ處ス

(イ) 第二十三條、第二十六條第一項及第三十七條第一項ノ規定違反

(ロ) 第五條、第二十一條、第三十一條、第三十六條及第三十八條ニ定ムル義務ノ不履行

(ハ) 第二十九條ニ留保シタル權利ノ行使ニ對スル故意ノ妨害

(2) 左ノ一ノ該當スル者ハ五百盾以下ノ罰金ニ處ス

(イ) 第二十七條及第三十三條ノ規定違反

(ロ) 第三十四條ニ定ムル義務ヲ履行セス地方長官ヨリ警告ヲ受ケタル後モ尙之ヲ怠リタル

トキ

(ハ) 第二十八條及第二十九條ノ規定ニ基キ土地ノ提供ヲ爲ササルトキ

(二) 本條ニ定メタル處罰事實ハ之ヲ違反ト看做ス

## 第四、入國關係法規

### 一、蘭領印度入國令

一九一六年二月四日官報蘭領印度法令第四七號

#### 第一條

- (一) 左ニ掲クル者ハ總督ノ指定スル港ニ限り其ノ上陸又ハ再乗船ヲ許可ス
- (イ) 和蘭人ニシテ其ノ兩親共ニ蘭領印度ニ定住セサル者又ハ蘭領印度ノ定住民ニ非サル和蘭人
- (ロ) 蘭領印度ノ定住民ニ非サル外國人
- (二) 上陸セントスル者ハ本令施行ノ爲メ總督ノ指定セル上陸取締官ヨリ上陸許可證ヲ受クヘシ
- (三) 總督ノ定ムル特別ノ條件ニ適合スルニ非サレハ左記ノ者ニ對シ上陸許可證ヲ下附スルコトヲ得ス  
瘋癲、白痴又ハ傳染病患者ニシテ社會生活上危險ノ虞アル者又ハ身體上ノ缺陷ニ依リ救濟ヲ必要トスル虞アル者
- (四) 前項ノ規定ハ本令ニ據リ下附セラレタル入國許可證ノ正當所有者ニハ之ヲ適用セス

第二條

直接若ハ乗換後國外ヨリ蘭領東印度ニ渡來スル旅客ヲ運搬スル船舶ノ船長ハ左ノ義務ヲ有ス

(イ) 船舶カ第一條ニ掲ケタル港ニ到着シタルトキハ直ニ其ノ港ニ上陸スヘキ船客名簿ニ署名シタル上之ヲ上陸取締官ニ提出スルコト

(ロ) 第一條ノ規定ニ該當スル船客ヲシテ上陸許可證ヲ携帯セスシテ上陸セシメサラサルコト及第一條ニ規定スル以外ノ港ニ於テ他船ニ乗換セシメサルコト

第三條

(一) 上陸許可證ハ船内ニ於テ之ヲ發給シ其ノ手数料トシテ蘭貨百盾ヲ徵收ス但シ入國ヲ拒絕セラレタル者ニ對シテハ手数料ヲ返還ス入國許可證ハ同時ニ本人ノ妻及未成年ノ子ニ對シテモ效力ヲ有ス

(二) 和蘭人ニ對シテハ第一項ノ手数料ヲ免除ス

(三) 到着後總督ノ定ムル一定ノ期間内ニ蘭領印度ヲ退去スル者ハ第一項ニ規定スル手数料ノ返還ヲ要求スルコトヲ得

第四條

(一) 上陸許可證ハ上陸取締官ニ於テ特別ニ指定シタル場合ヲ除キ上陸後直ニ總督ノ任命セル移民委員會ニ直接提出シ入國許可證ト引換フヘシ

(二) 第一條第三項ニ掲ケタル者ノ外尙左ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ入國許可證ノ下附ヲ拒絕ス

賣淫ヲ業トシ又ハ之ヲ幫助スル者

犯罪人引渡條約ヲ締結セル外國ニ於テ該條約ノ引渡條項ニ該當ス可キ犯罪ノ宣告ヲ受ケタル者  
蘭領印度滞在ヲ拒絕セラレタル者並ニ自己及其ノ家族ノ生活ヲ保證シ得サルモノト認ムル者  
公共ノ安寧及秩序ヲ亂ス虞アリト認ムル者

本國政府ノ發給シ且蘭領印度入國ニ對スル査證ヲ爲シタル旅券又ハ在外蘭國外交官又ハ領事官ノ認證セル身分證明書ヲ有セサル者

但シ總督カ旅券又ハ査證ノ必要ナシト指定シタル外國人ハ此ノ限ニ在ラス

(三) 土人ノ經濟的利益ニ害アリト認メラルル者ノ入國ハ總督ノ規定スル特別ノ條件ノ下ニ之ヲ許可シ又ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得

(四) 本條第一項ニ規定スル入國許可證ノ引換ノ場合本人ノ妻及未成年ノ子ニ對シテモ亦各別ニ許

可證ヲ發給スルモノトス

### 第五條

- (一) 總督ノ指定セル船主又ハ汽船會社ニ屬スル船舶ノ一、二等船客ニ下附セラレタル上陸許可證ハ同時ニ入國許可證ノ效力ヲ有ス但シ右許可證ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ
- (二) 上陸取締官若シ第四條第二項及第三項ノ規定ニ據リ當該船客ノ入國ヲ拒絕スヘキモノト認メタルトキハ前項ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ

### 第五條 A

總督ノ指定スル蘭領印度以外ノ港ニ於テ總督ノ指定スル蘭領印度移民官ハ入國許可證ヲ發給スルコトヲ得

### 第六條

- (一) 入國許可證ノ正當所有者ハ交通及居住規則ニ遵ヒ二年間蘭領印度ニ在留スルコトヲ得但シ右ハ第十二條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス
- (二) 前項所定ノ期間終了後本人ヨリ出願アリタルトキハ其ノ居住地所轄ノ地方長官ハ各一年ヲ超エサル期間ヲ以テ二回及第三回目ニ於テハ六年以内ノ期間ヲ以テ其ノ延長ヲ爲スコトヲ得

- (三) 入國許可證ハ蘭領印度ヨリ出發スルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ此ノ場合上陸地ニ於ケル上陸取締官或ハ上陸地ニ非サル場合ハ當該地管轄ノ地方長官ニ其ノ旨通知シ且外國滞在一年以内ナルトキハ入國許可證ノ效力ハ繼續ス
- (四) 效力ノ延長及出發ノ場合ニ於ケル通知ニハ入國許可證ニ其ノ旨記入スルコトヲ要ス
- (五) 第四條ニ規定スル理由ニ依ル期限延長ノ拒絕ハ第九條ニ規定スル入國許可證ノ發給拒絕ト同様ノ效果ヲ有スルモノトス此ノ場合第九條ノ最後ノ二項ヲ適用スルモノトス

### 第七條

- (一) 移民委員會ノ決定ニ對シテハ八日以内ニ所轄地方長官ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
- (二) 異議ノ申立ハ右委員會ヲ經テ之ヲ爲スヘク當該委員會ハ本人カ留置場ニ抑留セラレサル場合ニ於テハ地方長官ノ決定ヲ得ル間假入國許可證ヲ發給スヘシ

### 第八條

異議ノ申立ニ理由アリト認ムルトキハ假入國許可證ト引換ニ入國許可證ヲ交附シ又ハ單ニ之ヲ下附ス

異議ノ申立ニ理由無キモノト認ムルトキ又ハ所定ノ期間内ニ異議ノ申立ヲ爲ササルトキハ地方長

官ハ書面ヲ以テ本人ニ對シ蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス

第九條

- (一) 第一條第一項ニ掲ケタル者ニシテ有效ナル入國許可證若ハ假入國許可證ヲ所有セスシテ蘭領印度内ニ滞在スル者ニ對シテハ其ノ居住地ノ地方長官ハ之ニ出頭ヲ命シ第四條ノ規定ニ該當セサル者ニ限り入國許可證ヲ發給ス
- (二) 前項ノ規定ニ依リ入國許可證ヲ發給スル場合ハ有效ナル上陸許可證ヲ有スル者ニ對シテハ蘭貨百盾、其ノ他ノ者ニ對シテハ同百五十盾ヲ納付セシム但シ右ハ家長ニ對スル入國許可證ニ對シテノミ之ヲ徵收ス
- (三) 適法ニ入國ヲ許可セラレタル者カ入國許可證ヲ失ヒ其ノ旨届出タルトキハ所轄地方長官ハ無料ニテ入國許可證ノ副本ヲ交付ス
- (四) 地方長官ノ決定ニ對シ異議アルトキハ八日以内ニ本人居住地ノ地方長官ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
- 此ノ場合該地方長官ハ之ヲ決定シ其ノ理由ヲ申渡ス
- (五) 右異議ノ申立ニ理由アリト認ムルトキハ入國許可證ヲ發給ス

異議ノ申立ヲ却下シタルトキ又ハ所定ノ期間内ニ異議ノ申立ヲ爲ササルトキハ本人居住地ノ所轄地方長官ハ書面ヲ以テ蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス

右地方長官ハ本人ヨリ請願アリタルトキハ其ノ業務整理ノ爲メニ猶豫期間ヲ與フ

第十條

- (一) 第四條、第五條、第八條及第九條ニ依リ入國ヲ許可セラレタル者ト雖モ公共ノ安寧及秩序ニ害アリト認ムルトキ又ハ蘭領印度入國後有罪ノ判決ヲ受ケ若ハ身分、姓名ヲ詐稱スル等不法ノ手續ヲ以テ入國許可ヲ受ケタルモノナルトキハ總督ハ本人ニ對シ其ノ入國許可證ヲ沒收シタル上蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス

- (二) 本人ヨリ請願アリタルトキハ其ノ業務整理ノ爲メ猶豫期間ヲ與フ

第十一條

- (一) 本令ノ適用ヲ受クル者ト雖モ定住許可證ノ交附ヲ受クル迄ハ蘭領印度ニ定住スルモノト認メス
- (二) 瓜哇及「マヅラ」ニ居住スル者ニシテ蘭領印度永住ノ許可ヲ得ントスル者ハ入國許可證ヲ添附ノ上本人ノ居住地所轄ノ地方長官ヲ經テ總督ニ對シ印紙ヲ貼付シタル願書ヲ提出スヘシ

瓜哇、「マヅラ」以外ニ居住スル者ハ其ノ居住地所轄ノ地方長官ヲ經テ當該地方長官宛ニ同様願書ヲ提出スヘシ

(三) 願書ノ提出ヲ取扱フ當該地方長官ハ入國許可證ニ定住許可證出願ノ事實ヲ記入シタル後之ヲ出願人ニ返付ス出願人ハ定住許可書ヲ受領シタルトキハ入國許可證ヲ當該地方長官ニ返納スヘシ定住許可證ノ下附ニ對シテハ手数料十盾ヲ徵收ス

(四) 願書ニ對スル許可否ノ決定アル迄ハ出願人ハ第六條第一項ニ規定スル權利ヲ保留ス

第十二條

(一) 公共ノ安寧及秩序ヲ維持スルニ害アリト認メタルトキ、自己及家族ノ生計ヲ維持スル能力無シト認メタルトキ又ハ蘭領印度ニ渡來後刑ノ宣告ヲ受ケタルコトアルトキハ定住許可證ヲ下附セサルコトアルヘシ

(二) 定住許可證ノ下附ヲ拒絕シタルトキハ其ノ理由ヲ記載シ同時ニ出願人ニ對シ蘭領印度ヨリ退去ヲ命スヘシ

(三) 此ノ場合第十條第二項ノ規定ヲ適用ス

第十三條

入國許可證又ハ定住許可證ノ下附ヲ拒絕シタルトキ又ハ之ヲ沒收シタルトキハ本人ノ居住地所轄ノ地方長官ハ警察官ヲシテ之ヲ監視セシメ又ハ留置セシム

第十四條

(一) 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ一人ニ付蘭貨二百盾ノ罰金ニ處ス  
(二) 前項ノ罰金ハ當該船舶上ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條

違反ニ依リ刑法第五二七條ニ規定スル刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ罰金ノ納付若ハ服役後更ニ蘭領印度ヨリ退去セシメラルモノトス  
刑法第八十二條第一項ニ規定スル任意ノ罰金納付ニヨリ訴追權消滅シタル後又ハ最高裁判所カ不起訴ト決定シタル場合ト雖モ退去セシメラルモノトス

第十六條

他人ノ入國許可證又ハ定住許可證ヲ使用シタル者ハ第十五條ノ規定ニ依リ之ヲ罰ス

第十七條

本令ノ規定ハ左記ノ者ニ對シテハ之ヲ適用セス

- (イ) 政府ヨリ蘭領印度ニ派遣セラレタル者及其ノ家族
- (ロ) 領事官及其ノ家族
- (ハ) 各國軍艦ノ士官及乗組員
- (ニ) 外國商船ノ船長、高級船員及乗組員但シ到着ト同時ニ又ハ碇泊中解雇セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

(ホ) 單ニ蘭領印度ヲ經由シ其ノ航海ヲ繼續スル者但シ第十八條ノ適用ヲ受クルモノトス

第十八條

(一) 第十七條(ホ)項ニ掲ケタル者ニシテ公共ノ安寧及秩序ニ害アリト認ムルトキハ總督ハ之ニ對シ書面ヲ以テ蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス

(二) 右本人ノ乗船迄其ノ居所々轄地方長官ハ之ニ警察ノ監視ヲ附シ又ハ之ヲ拘留スルコトヲ得

第十九條

總督ハ本令ニ對シ除外例ヲ設クルコトヲ得

第二十條

(一) 總督ハ必要ト認ムルトキハ本令ノ外ニ其ノ施行ニ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

(二) 總督ハ土人ト同等待遇ノ勞働者ニ對シテ本令以外ニ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

暫定規定

第一

(イ) 本令ノ施行前和蘭人及外國人ノ入國ニ關スル規定ニ基キ交付セラレタル有效ナル入國許可證ヲ有スル者ニハ第一條第一項及第二項ヲ適用セス

(ロ) 右入國許可證ハ舊規定ニ依リ有效ナル期間本令ニ依ル入國許可證ト同一ナル效力ヲ有シ且本令ノ規定ニ依リ發行セラルル入國許可證ト同様ノ理由及方法ヲ以テ之ヲ沒收スルコトヲ得

總督ハ入國許可證ヲ沒收セラレタル者ニ對シ書面ヲ以テ蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス

(ハ) 前項ニ定ムル期間ハ第六條第二項及第三項ノ規定ヲ適用ス

第二

左記第三ニ定ムル者ヲ除キ第一條第一項ニ掲ケタル者ニシテ本令施行以前ヨリ引續キ蘭領印度ニ在留シ且有效ナル入國許可證ヲ所有セサル者ニ對シテハ第九條ノ規定ヲ適用シ同條第一項ノ規定ニ依リ發給シタル入國許可證ニ對シ蘭貨百盾ヲ徵收ス

第三

- (一) 左記ノ者ニ對シテハ第九條ノ規定ヲ適用ス
  - (イ) 本令實施ノ時ニ「リオ」州「ブラウ・トゥヂョ」區ニ居住シ尙引續キ居住スル者
  - (ロ) 第二十條第二項ニ該當セサル者ニシテ且本令施行前千八百九十二年法令第三百三十八號ニ據リ入國許可證ヲ要セサル者ニシテ「スマトラ」東海岸州ニ引續キ住所ヲ有スルトキ
- (二) 本人ノ希望ニヨリ第四條ノ規定ニ從ヒ入國許可證ヲ下附スルコトヲ得
- (三) 入國許可證ヲ下附セラレサル者ニ對シテハ第十八條ノ規定ニ基キ蘭領印度ヨリ退去ヲ命スルコトヲ得
- (四) 前項ノ場合第十條第二項及第十八條第三項ノ規定ヲ適用ス

附 則

- (一) 本令ハ之ヲ入國令 (Toelatingsbesluit) ト稱シ施行期日ハ總督之ヲ定ム
- (二) 本令ハ「タンジョンビナン」及「リンガ」ノ兩區及「スマトラ」島以外ニ於ケル「リオ」州「カリモン」區ニ於ケル東洋外國人ニ對シテハ之ヲ適用セス
- (三) 前項ニ掲ケタル地方ニ於ケル東洋外國人ノ入國及居住ニ關スル規定ハ必要ニ應シテ總督之ヲ

定ム

總督ハ本令ノ施行以前ニ上記以外ノ蘭領印度ニ居住スル東洋外國人ノ入國ニ關シ本令以外ノ規定ヲ設クルコトヲ得

二、蘭領印度入國令施行細則 (一九一七年十二月四日附蘭領印度法令第六九三號)

第一條

入國令第一條第一項ニ規定スル上陸地ヲ左ノ各港ト定ム

Tandjongpriok, Semarang, Soerabaja, Emmahaven, Palembang, Djambi, Belawan Deli, Bengkalis, Sabang, Langsu, Tandjongpinang, Peloe Samboe, Muntok, Tandjongpandang, Pontianak, Singkawang, Bandjermasin, Balikpapan, Menado, Makasser, Pangkalpinang, Tarakan, Selat Pandjang, Soengoi Goentoeng.

第一條 A

蘭領印度外ヨリ直接若ハ乗換後渡來スル旅客ヲ運搬スル船舶ニシテ下船ノ目的ヲ以テ第一條ニ掲ケタル諸港ノ一ニ入港スル場合ハ該船舶ニ上陸取締官吏ノ到着スル迄明瞭ナル方法ヲ以テ國際信號旗 N ヲ掲揚スヘシ



第二條

蘭領印度ニ居住スル者ハ當該居住地ノ地方長官ニ又蘭領印度以外ニ在留スル者ハ最後ニ居住シタル地ノ地方長官ニ出願シテ蘭領印度住民タル證明書ノ下附ヲ受クルコトヲ得

第三條

- (一) 入國令ノ實施ニ當リ規定セル上陸官ハ港務部長、港務次長、港務部長代理、港務次長代理及上陸取締事務ノ爲メ右諸官ニ隸屬セシメラルル官吏ヲ上陸取締官ニ任命ス
- (二) 港務部長及港務次長若ハ其ノ代理者ハ部下ノ官吏ニ上陸取締官タル職ヲ委任スルコトヲ得

第四條

上陸許可證下附ノ爲メニ納付シタル金額ハ萬一本人カ入國ヲ拒絕セラレタル場合ニハ第六條ニ規定スル移民委員會書記官之ヲ本人ニ返戻スヘシ

第五條

蘭領印度ニ到着後六箇月以内ニ蘭領印度ヲ退去スル者ハ第一條ニ掲ケタル港ニ於ケル上陸取締官ニ其ノ他ノ地方ニ於テハ當該地方長官ニ入國許可證ヲ提出シ入國令第三條第一項ニ規定スル上陸

許可證下附ノ爲メニ納付シタル金額ノ拂戻ヲ申請スルコトヲ得

第六條

- (一) 入國令第四條第一項ニ規定セル上陸許可證ト入國許可證トノ引換ハ瓜哇及「マヅラ」ニ於テハ Batavia, Semarang 及 Soerabaja、外領ニ於テハ Padang, Palembang, Djambi, Medan, Bengkalis, Sabang, Langsa, Tandjongpinang, Pankalpinang, Muntok, Tandjong Pandan, Pontianak, Singkawang, Bandjermasin, Balikpapan, Menado, Makassar, 及 Selat Pandjang ニ於ケル地方移民委員會、又 Tarakan, Poeloe Samboe 及 Soengei Goentoeng ニ於テハ夫々 Balikpapan, Tandjoeng Pinang, Medan 及 Tandjoeng Pandan ニ設ケラレタル移民委員會ノ書記官代理之ヲ取扱フ

- (二) 移民委員會ノ組織ハ左ノ如シ

委員兼委員長—地方長官

委員兼書記官—一名、總督之ヲ任命ス

醫 務 官—一名乃至數名、衛生局長之ヲ任命ス

委員會所在地ニ駐在スル地方長官ノ任命スル警察官吏又ハ其ノ他ノ官吏一名ヲ委員トシ又當該地ニ於ケル支那人、「アラビア」人、「ムーア」人及「ベンガル」人ヲ代表スル最高級ノ者ヲ委

員トス

一一〇

(三) 各州長官ハ委員會ノ書記官ナキトキ又ハ其ノ不在或ハ支障ノ場合ハ其ノ事務ヲ代理セシムル爲メ官吏ヲ任命シ又委員會書記官ノ駐在地以外ニ於テ第七條及第八條ニ定ムル事務ヲ行フ官吏ヲ任命スルコトヲ得

第七條

入國許可證ハ移民委員會ノ名ヲ以テ書記官又ハ其ノ代理者之ヲ發給ス書記官及其ノ代理者ハ上陸後直ニ入國許可證ト引換ノ爲メ上陸許可證ヲ提出スヘキ移民ノ出頭ヲ求メ又ハ必要ニ際シテハ之ヲ強制スルコトヲ得

移民委員會書記官ニ對シ入國許可ヲ受クヘキ資格アル旨ヲ證明シ得サル移民ハ許可アル迄ハ當該書記官ノ命ニ依リ警察官ノ監視ノ下ニ置カレ若ハ拘留セララルヘシ

移民委員會書記官ハ移民ノ入國許可ヲ直ニ決シ得サル場合ハ之カ決定迄期限六箇月ヲ超エサル假入國許可證ヲ發給スルコトヲ得、假入國許可證所持者ニ對シテハ上陸許可ニ際シ支拂ヒタル金額ノ拂戻ニ關スル第五條ノ規定ヲ適用ス

第八條

移民委員會ニ於テ入國令第三條第一項ニ規定セル金額ノ納付ニ對シ上陸許可證ヲ交付シタル場合其ノ納付者カ上陸許可證ヲ要セサルモノナルコト或ハ上陸許可證交付ニ對シ手数料ヲ納付スルノ義務ナキモノト認メタルトキハ同委員會書記官又ハ其ノ代理者ハ該金額ヲ當事者ニ拂戻スヘシ

第九條

入國令第五條第一項ノ規定ハ左記各汽船會社汽船ニ之ヲ適用ス

- Koninklijke Paketvaart Maatschappij.
- Stoomvaart-Maatschappij Nederland.
- De Rotterdamse Lloyd.
- Asiatic Steam Navigation Company, Limited.
- British India Steam Navigation Company, Ltd.
- West Australian Steam Navigation Company.
- Ocean Steamship Company, Limited.
- De Nederlandsche Stoom-Vaart Maatschappij Ocean.
- Peninsular and Oriental Steam Navigation Company.
- Burns, Philp and Company, Limited (Burns Philp Line).
- Norddeutscher Lloyd.
- Nanyo Yusen Kabushiki Kaisha.

一一一

- Osaka Shosen Kabushiki Kaisha.
- Java China Japan Line.
- Deutsche Australische Dampfschiffs gesellschaft.
- Eastern Shipping Company, Ltd.
- Societa di Navigazione a Vopore Lloyd Triestine Company, Ltd.
- China Mail Shipping Company, Ltd.
- Pacific Mail Steamship Company, Ltd.
- The Commonwealth Government Line of Steamers.
- Transatlantic Steamship Company, Ltd.
- East Asiatic Company, Ltd.
- Norwegian Africa and Australia Line.
- State Shipping Service.

第十條

本細則ハ之ヲ入國令施行細則 (Trelatingsordnantie) ト稱シ一九一八年四月一日ヨリ之ヲ實施ス

